

女性の働き方に関するアンケート調査報告書

2022年12月

広陵町

目次

第一章 調査概要	- 4 -
第一節 調査の目的	- 4 -
第二節 調査内容	- 4 -
第三節 調査方法	- 4 -
第四節 回収結果	- 4 -
第二章 調査結果概要	- 5 -
第三章 調査内容	- 7 -
第一節 回答者の属性	- 7 -
問 1 年齢（単一回答）.....	- 7 -
問 2 居住している小学校区（単一回答）.....	- 8 -
問 3 夫、またはパートナーの有無（単一回答）.....	- 9 -
問 4 子どもの有無（単一回答）.....	- 10 -
問 5 世帯構成（単一回答）.....	- 13 -
問 6 回答者の家事や育児、介護などの分担割合（単一回答）.....	- 14 -
第二節 回答者の現在の状況	- 15 -
問 7 仕事の有無（単一回答）.....	- 15 -
問 8 片道の通勤時間（単一回答）.....	- 16 -
問 9 労働時間及び日数（単一回答）.....	- 17 -
問 10 勤務している（主な）時間帯（複数回答）.....	- 19 -

問 11	現在の働き方への満足度（単一回答）	- 20 -
問 12	仕事をしていない理由（複数回答）	- 26 -
問 13	今後働きたい（働き続けたい）か（単一回答）	- 28 -
問 14	働きたい（働き続けたい）理由（複数回答）	- 30 -
第三節	回答者のこれまでの就業経験	- 32 -
問 16	これまでの就業経験の有無（単一回答）	- 32 -
問 17	直近の職歴で、仕事を始めた理由やきっかけ（複数回答）	- 33 -
問 18	退職経験の有無（単一回答）	- 35 -
問 19	退職した理由・きっかけ（複数回答）	- 36 -
第四節	就業に際し、重視すること	- 38 -
問 20	働きたい（理想的な）就労形態（複数回答）	- 38 -
問 21	働きたい（理想的な）職種（複数回答）	- 40 -
問 22	理想的な通勤時間（片道）について（単一回答）	- 41 -
問 23	職場を決定するために、重要だと思うこと（複数回答）	- 42 -
問 24	勤務したい時間帯（複数回答）	- 44 -
問 25	週に働きたい回数・働きたい時間（単一回答）	- 45 -
問 26	就職活動の際、利用しやすいメディア（複数回答）	- 47 -
第五節	就業に関するライフコース	- 48 -
問 27	回答者が歩んだ「実際の」または「歩みそうな」ライフコース（単一回答）	- 49 -
問 28	回答者の「理想の」ライフコース（単一回答）	- 50 -
問 29	働き続けるために、夫（パートナー）や家族に求めるもの（複数回答※3つまで） ..	- 53 -

問 30 働き続けるために、行政に求めるもの（複数回答）※ただし、3つまで.....- 54 -

第一章 調査概要

第一節 調査の目的

男女平等や女性の社会進出は、現代社会における重点課題の一つとして捉えられている。しかし、広陵町における女性の就業率は、全国平均や奈良県平均をさらに下回っている。一方で、町内では、女性人材の活躍に期待する事業所は少ない。

そこで、本調査では、町内女性の働き方に関する実態を把握し、町内の女性が働くことに対して、現状持っている意識や課題について明らかにすることを目的とする。

第二節 調査内容

- 回答者の属性
- 回答者の現在の状況
- 回答者のこれまでの就業経験
- 就業に際し、重視すること
- 就業に関するライフコース

第三節 調査方法

1) 調査対象

広陵町内にお住まいの満 25 歳から 74 歳までの女性のうち、無作為抽出した 1,000 名

2) 調査時期

令和 4 年 9 月 5 日(月)～9 月 26 日(月)

3) 調査方法:

郵送調査(郵送配布・郵送回収)

第四節 回収結果

有効回答数:446 /有効解答率:44.6%

第二章 調査結果概要

- 本調査対象の女性のライフスタイル

ライフスタイルを見てみると、回答者自身が家事や育児、介護を担っている割合が高いことがわかった(問 6)。また、希望する就労形態(問 20)や職場決定における重要な点(問 23)、求める勤務形態(問 24・25)などを加味すると、私生活を優先する割合が高いことが推測される。

- 本調査対象の女性の希望する業務内容ややりがい

業務内容については事務職や医療介護職を希望する割合が高い傾向が見られた(問 21)。仕事のやりがいについて、経済性との回答が上位を占める一方で、生活へのほりや社会との関わりといった、自己実現につながる回答が続いた。夫婦間の対等な関係性などの性別役割分業意識に関する項目は低い傾向が見られた(問 12)

- 働いていない女性の現状

現在、働いていない人の半数近くが、家事や育児のためと回答している(図 13)一方で、働いていない人の半数以上が、「働きたい」または、「働きたいが働けない」と回答していることが明らかとなった(図 14-1)。さらに、現在働いていない人がパート等の仕事と家庭の両立ができるような働き方を希望している現状(図 21-1)や働いている人に比べると圧倒的にパートやアルバイトを希望している割合が高いこと(図 20-1)を鑑みると、業務時間や体制に柔軟性を持たせた業務形態の提示が、新たな労働力を創出する可能性があることが示唆された。

- 職場を決定する際に重要視することと実際の(または歩みそうな)ライフコース

結婚や出産を契機に離職し、専業主婦になる「専業主婦コース」と、離職後生活が落ち着くと再就職する「再就職コース」、結婚出産を経ても離職せず働き続ける「継続就業コース」にわけて分析すると、全てのコースにおいて自宅からの距離を重要視している点からは、どのコースを歩む人にとっても、町内に職場があることは肯定的であると考えられる。一方で、継続就業コースの人は、「休暇がとりやすい職場環境」や「時間有休の取得ができる」、「育児休暇・介護休暇の充実」などの項目について、15ポイント以上の差で高いことが明らかとなった。

また、現在、就業している、再就職コースと継続就業コースの傾向として、「相談できる上司や同僚がいる職場環境」、「就業規定・賃金規定等の定めがあること」「雇用条件が明確であること」など職場の業務環境を重視した項目が、専業主婦コースに比べると10ポイント以上高いことが明らかとなった。現在働いている人の7割以上が現在の働き方に概ね満足している(図 11)ことを鑑みると、再就職コースと継続就業コースを歩む(歩む予定)の人は、これらの条件を満たした職場で就業している可能性が高いことが伺える。

以上のことから、本調査では、女性自身が家事や育児を担う割合が高い中で、現在、働いている人もそうでない人も、私生活と仕事を両立でき、私生活を優先することができるような柔軟な働き方を求め

ていることが明らかとなった。継続的に就業するためには、休暇の取りやすい柔軟な体制が求められており、今後、潜在的な労働者の発掘のためには仕事と家庭の両立を支援する体制づくりが重要であると考えられる。

第三章 調査内容

第一節 回答者の属性

問1 年齢（単一回答）

回答者を年齢別に見ると、「29歳以下」が5.4%と他に比べると少ないものの、「30～34歳」から「70歳以上」は、それぞれ10%前後であり、概ね同数を占めている。

表1: 年齢(n=446)

	個数	割合
29歳以下	24	5.4%
30～34歳	49	11.0%
35～39歳	51	11.4%
40～44歳	44	9.9%
45～49歳	49	11.0%
50～54歳	51	11.4%
55～59歳	47	10.5%
60～64歳	51	11.4%
65～69歳	41	9.2%
70歳以上	39	8.7%
総計	446	100.0%

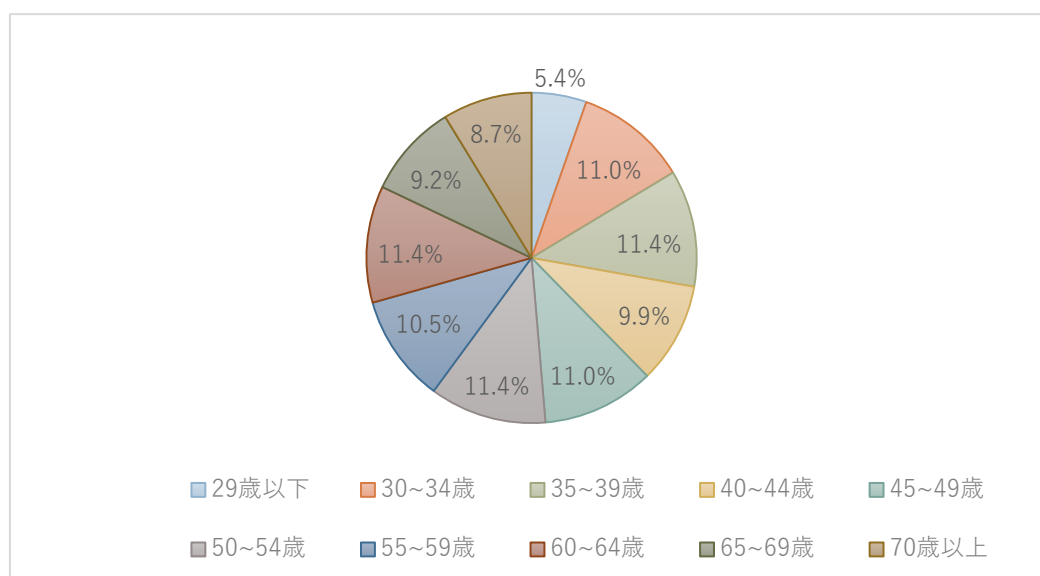


図1: 年齢 (n=446)

問2 居住している小学校区（単一回答）

回答者の居住地域は、「真美ヶ丘第二小学校区」の 27.6%が最も多く、次いで「広陵西小学校区」が 25.2%であった。

表 2: 居住地域 (n=445)

	個数	割合
広陵東小学校区	55	12.4%
広陵西小学校区	112	25.2%
広陵北小学校区	70	15.7%
真美ヶ丘第一小学校区	85	19.1%
真美ヶ丘第二小学校区	123	27.6%
総計	445	100.0%

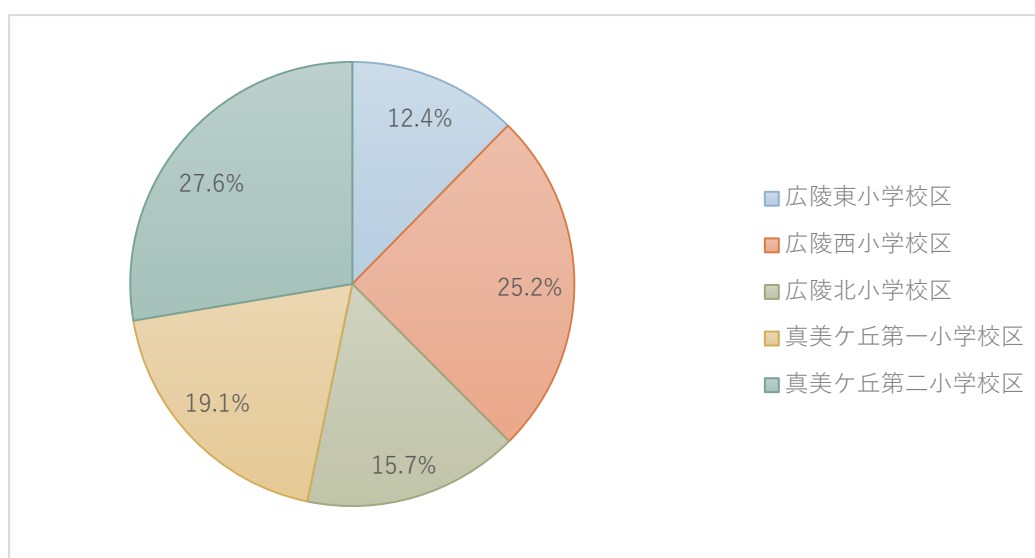


図 2: 居住地域 (n=445)

問3 夫、またはパートナーの有無（単一回答）

配偶者やパートナーの有無の割合を見ると、「いる」と回答した人は74.4%、「いたことがある」と回答した人は9%で、配偶者やパートナーがいる・またはいた経験がある人が全体の約85%を占めている。

表3: 配偶者、パートナーの有無 (n=445)

	個数	割合
いない	74	16.6%
いる	331	74.4%
いたことがある	40	9.0%
総計	445	100.0%

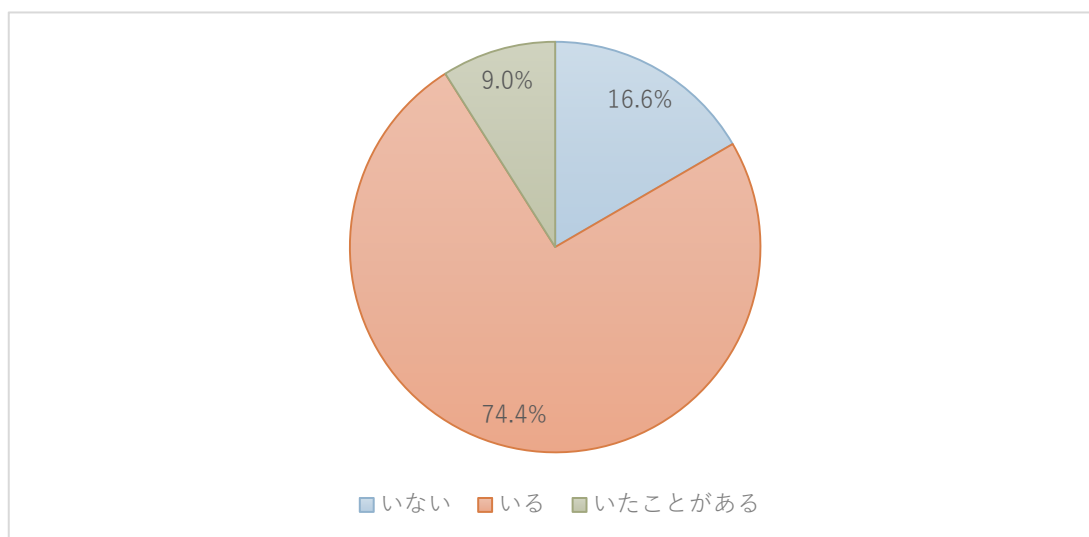


図3: 配偶者、パートナーの有無 (n=445)

問4 子どもの有無（単一回答）

①子どもの有無

回答者を子どもの有無別に見ると、「いる」と回答した人は 80.1%で、「いない」と回答した人は 19.9%である。

表 4-1:子どもの有無(n=443)

	個数	割合
いない	88	19.9%
いる	355	80.1%
総計	443	100.0%

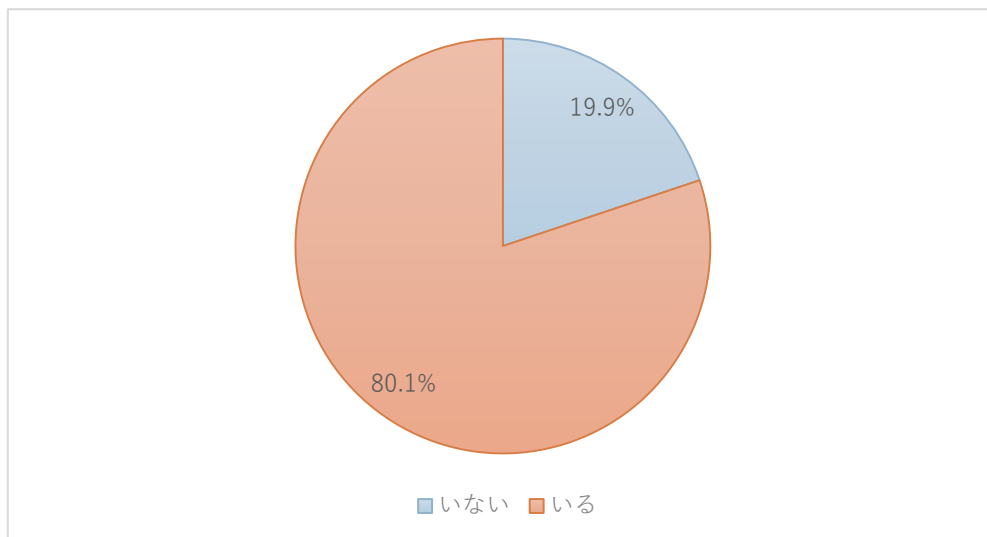


図 4-1:子どもの有無 (n=443)

② 子どもの人数（単一回答）

問4の①で「いる」と回答した人を対象に、子どもの人数別の割合を見ると、「2人」の57.7%が最も多く、次いで「3人」が23.7%、「1人」が14.4%である。2人以上の子どもがいると回答した人が全体の約75%を占めている。

表4-2 子どもの人数(n=355)

	個数	割合
1人	51	14.4%
2人	205	57.7%
3人	84	23.7%
4人	7	2.0%
5人	1	0.3%
その他	7	2.0%
総計	355	100%

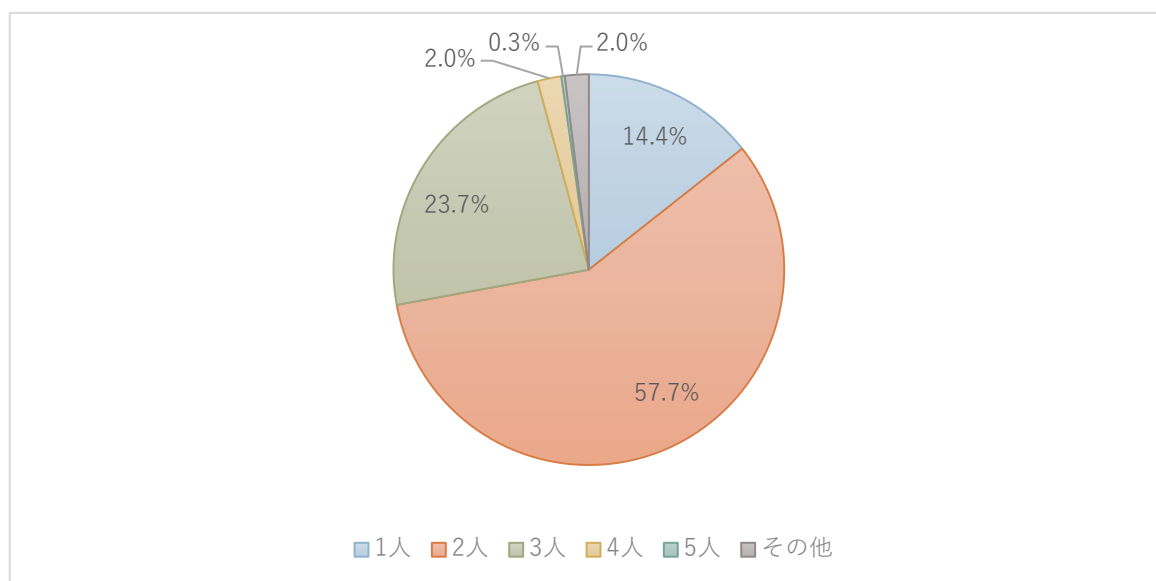


図4-2 子どもの人数 (n=355)

③ 一番下の子の年齢

問4の①で「いる」と回答した人を対象に、一番下の子どもの年齢別に見ると、「19歳以上」が最も多く56.4%と、全体の約半数以上を占めており、次いで、「0～5歳」が17.5%、「13～18歳」が15.6%、「6～12歳」が12.4%であった。

表 4-3 一番下の子どもの年齢(n=314)

	個数	割合
0～5歳	55	17.5%
6～12歳	39	12.4%
13～18歳	49	15.6%
19歳以上	177	56.4%
総計	314	100%

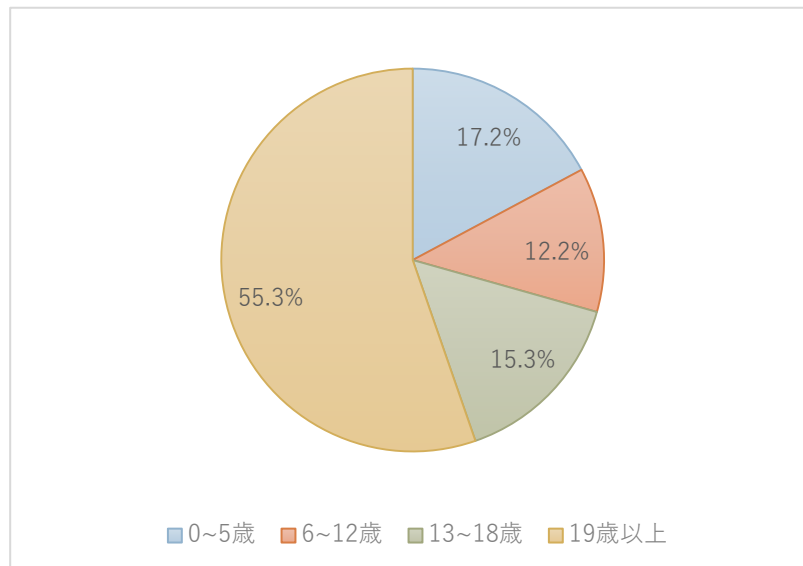


図 4-3 一番下のお子さんの年齢 (n=314)

問5 世帯構成 (単一回答)

回答者を世帯構成別に見ると、「二世帯世帯」が最も多く61.9%、次いで、「夫またはパートナーのみ」の23.4%である。

表 5 世帯構成 (n=444)

	個数	割合
一人暮らし	25	5.6%
夫またはパートナーのみ	104	23.4%
二世帯世帯 (親と子)	275	61.9%
三世帯世帯 (親と子と孫)	33	7.4%
その他	7	1.6%
総計	444	100.0%

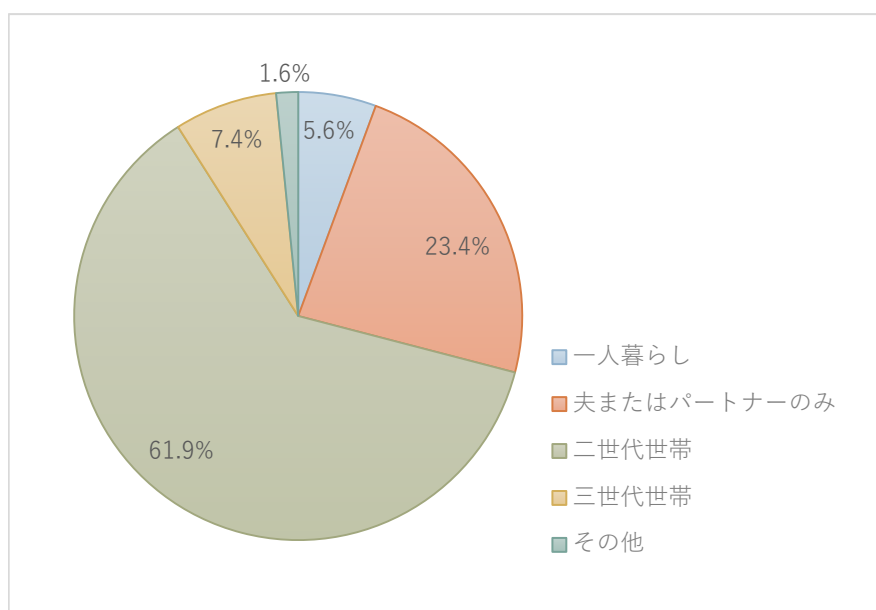


図 5 世帯構成 (n=444)

問6 回答者の家事や育児、介護などの分担割合（単一回答）

回答者の家事や育児、介護などの分担割合を見ると、「ほぼ全て担っている」が 48.1%と最も多く、75%程度担っている」が 28.6%、「50%程度担っている」が 10.2%と続き、50%程度以上担っていると回答した人は、全体の 8 割強を占めている。

表 6 家事や育児、介護などの分担割合 (n=441)

	個数	割合
ほぼ全て担っている	212	48.1%
75%程度担っている	126	28.6%
50%程度担っている	45	10.2%
25%程度担っている	26	5.9%
全く、もしくはほぼ担っていない	28	6.3%
その他	4	0.9%
総計	441	100.0%

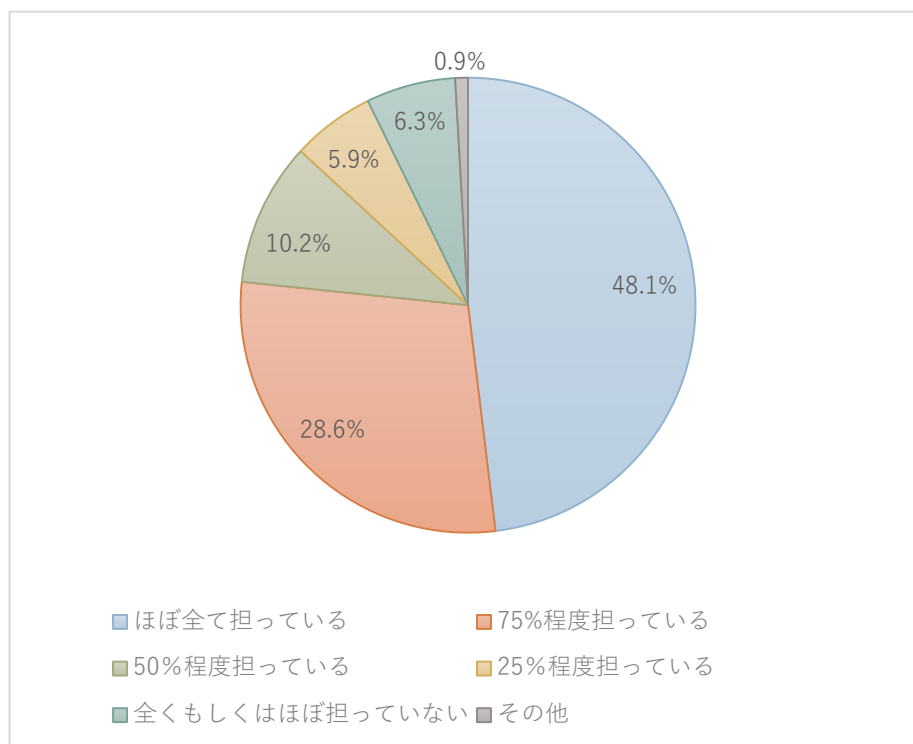


図 6 家事や育児、介護などの分担割合 (n=441)

問7 仕事の有無（単一回答）

回答者を仕事の有無別に見ると、「している」が 65.9%、「していない」が 34.1%である。

表 7 現在仕事をしているか（n=446）

	個数	割合
している・休職中である	294	65.9%
していない	152	34.1%
総計	446	100.0%

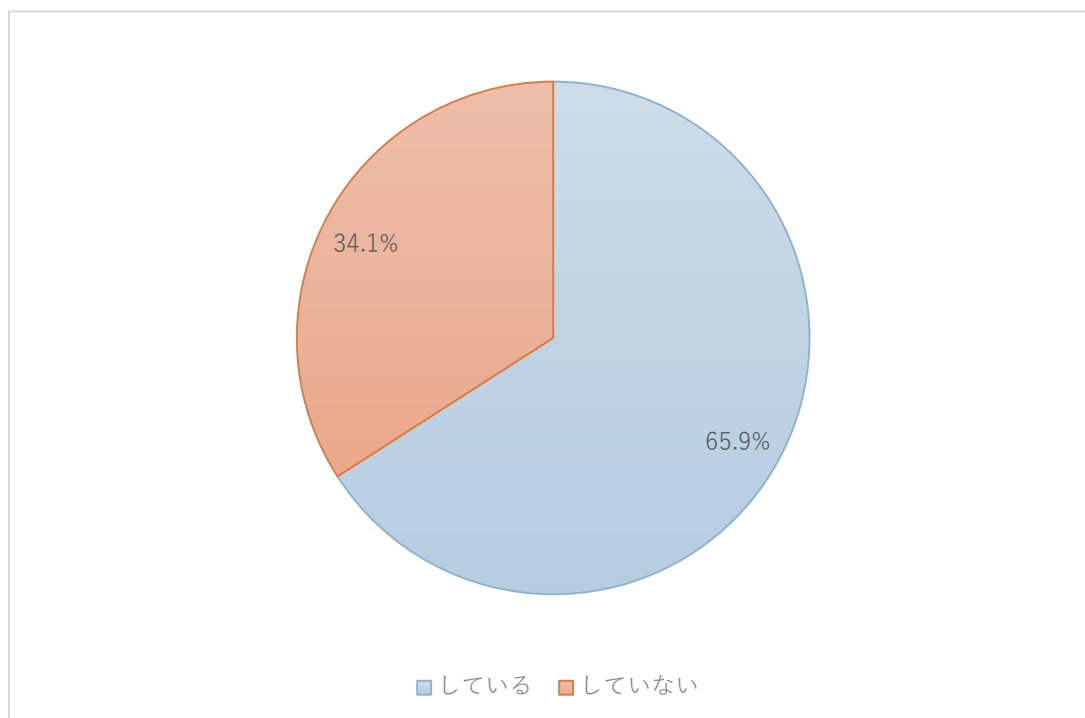


図 7 現在仕事をしているか（n=446）

問8 片道の通勤時間（単一回答）

問7で「している」と回答した人を片道の通勤時間別に見ると、「30分未満(町外)」が最も多く35.5%、次いで、「30分未満(町内)」が30%、「30分～1時間」が15.4%と続いており、30分未満が全体の約6.5割を占めている。

表8 片道の通勤時間(n=293)

	個数	割合
30分未満(町内)	88	30.0%
30分未満(町外)	104	35.5%
30分～1時間	45	15.4%
1時間以上	32	10.9%
在宅の仕事	24	8.2%
総計	293	100.0%

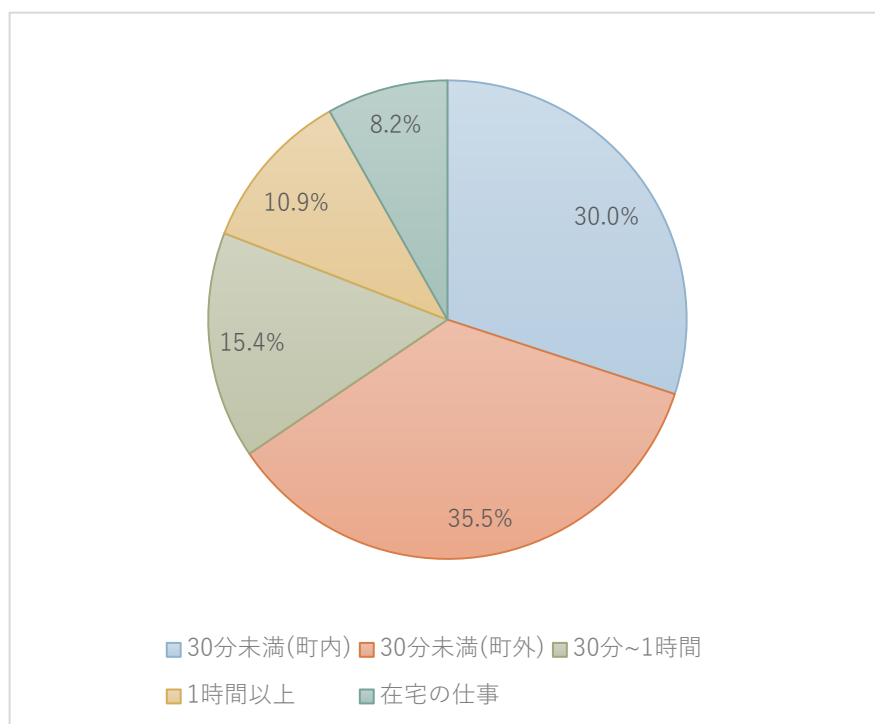


図8 片道の通勤時間 (n=293)

問9 労働時間及び日数（単一回答）

① 一週間で何日働いているか

問7で「している」と回答した人を一週間で働く日数別で見ると、「5日」の57.1%が最も多く他と大きな差が見られた。

表 9-1 一週間で何日働いているか(n=289)

	個数	割合
1日	4	1.4%
2日	8	2.8%
3日	28	9.7%
4日	45	15.6%
5日	165	57.1%
6日	37	12.8%
7日	2	0.7%
総計	289	100%

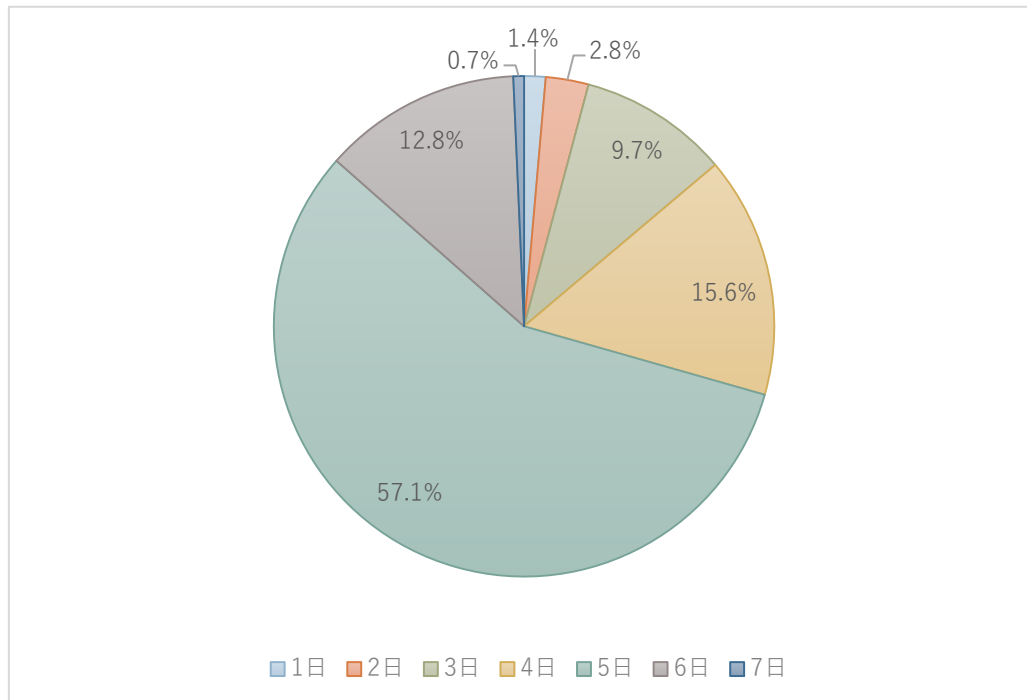


図 9-1 一週間で何日働いているか (n=289)

② 一日につき何時間働いているか

問7で「している」と回答した人を一日の勤務時間別に見ると、「8時間以上9時間未満」が最も多く33.2%、次いで「7時間以上8時間未満」が16.4%、「6時間以上7時間未満」が11.1%と続いた。

表9-2 一日の勤務時間(n=280)

	回答数	割合
2時間未満	1	0.4%
2時間台	7	2.5%
3時間台	11	3.9%
4時間台	26	9.3%
5時間台	30	10.7%
6時間台	31	11.1%
7時間台	46	16.4%
8時間台	93	33.2%
9時間台	17	6.1%
10時間台	7	2.5%
11時間以上	11	3.9%
総計	280	100%

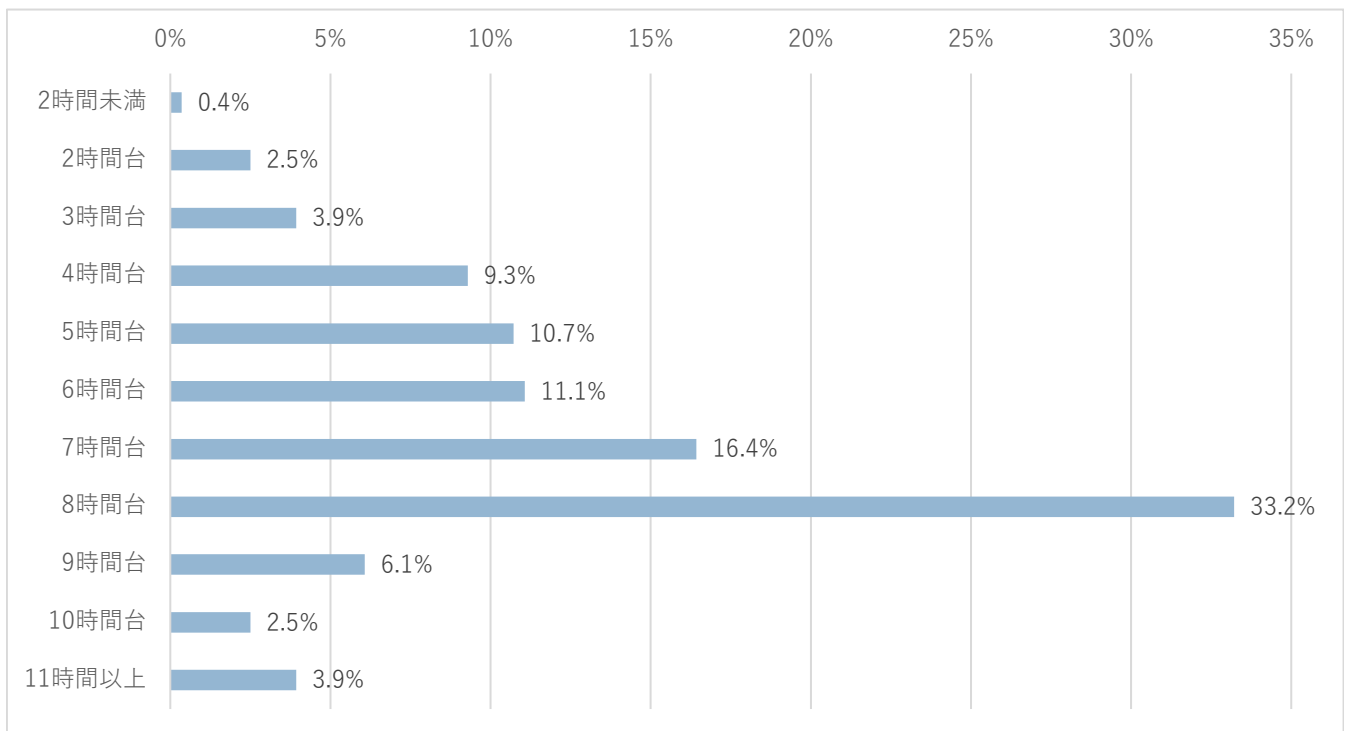


図9-2 一日の勤務時間 (n=280)

問10 勤務している（主な）時間帯（複数回答）

問7で「している」と回答した人の勤務時間帯を見ると、「9時」から「16時」がそれぞれ約8割前後を占めており、「17時」が55.6%と続いている。多くの方が9時から16時の時間帯に働いていることがわかる。

表 10 勤務している主な時間帯(n=293)

	個数	割合
早朝	3	1.0%
6時	4	1.4%
7時	19	6.5%
8時	115	39.2%
9時	241	82.3%
10時	262	89.4%
11時	264	90.1%
12時	235	80.2%
13時	241	82.3%
14時	246	84.0%
15時	243	82.9%
16時	228	77.8%
17時	163	55.6%
18時	81	27.6%
19時	41	14.0%
20時	19	6.5%
21時	14	4.8%
22時	9	3.1%
23時	9	3.1%
24時	6	2.0%
深夜	5	1.7%
総計	293	100.0%

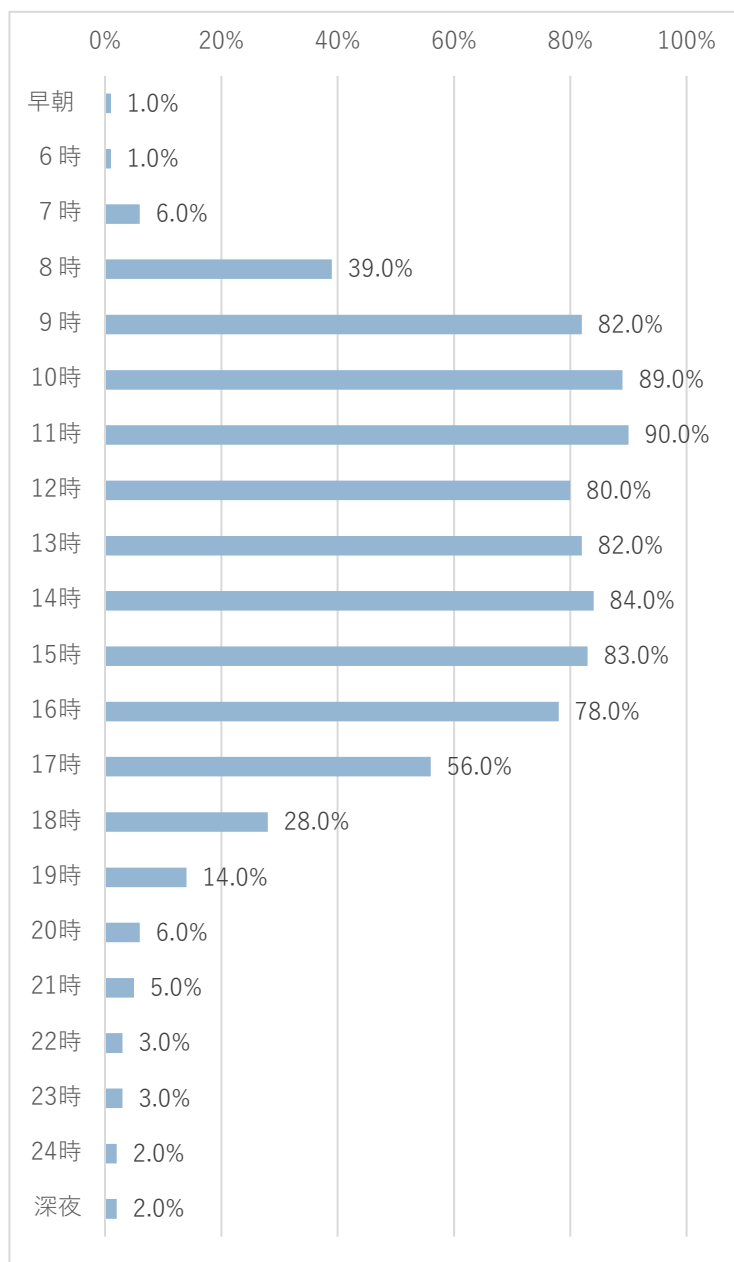


図 10 勤務している主な時間帯 (n=293)

問11 現在の働き方への満足度（単一回答）

問7で「している」と回答した人の今の働き方への満足度を見ると、「大いに満足している」が12.3%、「まあまあ満足している」が60.6%、と回答しており、全体の7割強を占めている。

表11 今の働き方に満足しているか(n=292)

	個数	割合
大いに満足している	36	12.3%
まあまあ満足している	177	60.6%
少し不満がある	61	20.9%
大いに不満がある	18	6.2%
総計	292	100.0%

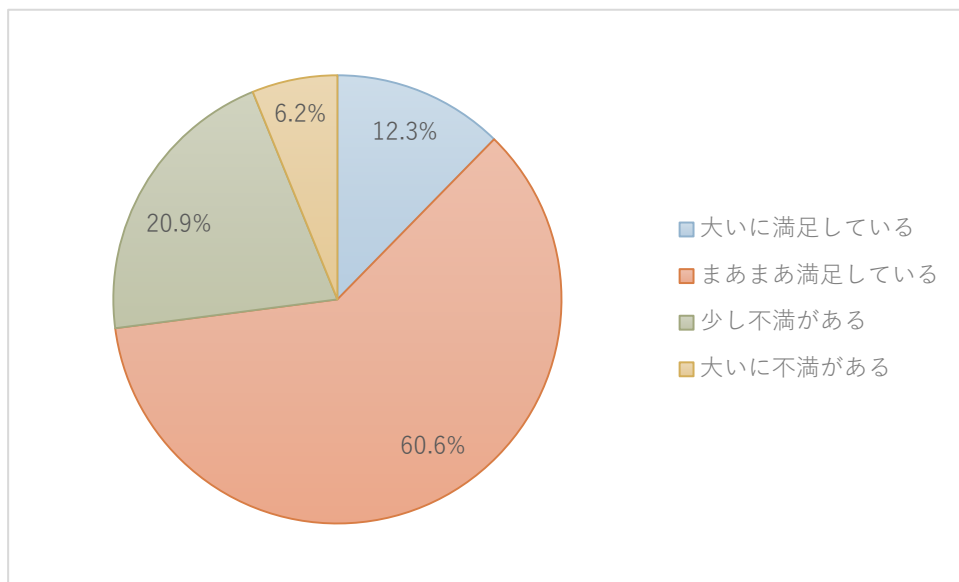


図11 今の働き方にどのくらい満足しているか (n=292)

問 11-1 今の働き方に満足している・不満がある理由

満足している理由

時間や休暇が取りやすく、自分の生活に合う働き方ができる点が満足している理由につながる事がわかる。また、「家庭との両立ができる」と回答した人が多いことから、女性は育児との時間が取れることが働く上で大事なことであるとわかる。

また、職場の環境や仕事内容の面で満足しているという意見も多いこともわかる。

表 11-1 満足している理由

時間・休暇・働き方	働いている時間や日数が丁度良い	7	環境	楽しく働ける	4
	自分の生活に合った時間や日数で働いている	7		人間関係が良い	3
	在宅の仕事	4		明るい職場	2
	希望の時間で働ける	4		相談が可能な会社の環境	1
	休みがとりやすい	3		社員同士コミュニケーションが取れる	1
	時短勤務ができる	3	立地	近い	2
	時間や仕事量の調節が可能	2		通勤時間が短い	1
	有給などの融通が利く	2	報酬	時給が高い	1
	希望を聞いてもらえる	2		収入に納得している	1
	定時に終わる	2		安定している	1
	自分の時間が持てる	2	仕事内容	やりがいを感じる	5
	残業が少ない	2		好きな仕事ができている	2
	夜勤がある	1		仕事内容が楽しい・充実している	2
	時間給がある	1		社会への貢献ができていると感じる	1
	土日祝日は休み	1		趣味をしながら仕事ができる	1
	出勤日数や時間がきちりしている	1	その他	1人で仕事をしている	1
	働きやすい	1		小規模な会社	1
		会社での拘束時間が短い		1	
育児	家庭との両立ができる	4			
	子どもとの時間が取れる	3			
	家事に負担が少ない	2			
	育休への理解がある会社	1			
	子どもがいても働きやすい	1			

不満がある理由

業務時間や働き方に対する不満の割合は多く、中でも、残業の多さや仕事の多忙さについての不満が多く見られる。さらに育児世代は、育児との両立についての不満が最も多く挙げられた。

表 11-1 不満がある理由

時間・ 休暇・ 働き方	残業多い	8
	仕事が忙しすぎる	7
	休みを増やしたい	5
	もっと働きたい	5
	時間外勤務	4
	休暇を取るのが難しい	4
	労働時間が長い	3
	夜勤がある	3
	勤務日や終わる時間が定まっていない	3
	パートなのに負担が多い	2
	思うように働けない	2
	人員不足	1
	仕事を家に持ち帰る	1
	休日出勤	1
	休憩時間がない	1
	忙しいのに残業ができない	1
	シフトが決まるのが遅い	1
	自由な時間が欲しい	1
育児・ 介護	育児との両立が難しい	7
	子どもと過ごす時間が少ない	2
	時間短縮等の働き方への理解がないこと	2
	子どものことで休み・遅刻・早退をすることが多くなる	2
	家のことができない	2
	子どものことで休みを取るのに気を遣う	1
	鍵っ子生活をさせていたこと	1
	育児しながら働くことへの理解がない	1
	介護との両立が難しい	1

環境	人間関係の問題	3
	設備が悪い	1
	保障がない	1
	社会保険に強制で入らなければならないため損をしている	1
立地	通勤時間がかかる	6
	遠い	4
	駅までのアクセスが少ない	1
報酬	給料が安い	8
	長年働き続けていても給料が変わらない	3
	収入が安定していない	1
	残業代がつかない	1
	給与が下がった	1
	コロナ時の給与がなかったこと	1
内容	思っていた仕事内容と違う	1
	自分のスキルを活かせない	1
社会	子どものことで妻が休むという社会の考え	1
	家庭保育を求められる	1
	最低賃金引き上げをしたが130万円の壁が変わらないこと	1

仕事をしていてよかったと思えること(複数回答)

仕事をよかったと思えたこととして、「家計が楽になる・貯蓄できること(67.6%)」の経済性を挙げる人が最も多く、次いで、「生活にメリハリができること(58.4%)」、「社会や人と関わって視野が広がること(52.6%)」である。一方で、性別役割分業意識の改善に関する対等性の項目については、低い。

表 12 仕事をしていてよかったと思えること (n=293)

		個数	割合
経済性	家計が楽になる・貯蓄できること	198	67.6%
	自由に使えるお金が増えること	136	46.4%
	家・車など大きな買い物ができたこと	52	17.7%
	子どもの進路や習い事の選択肢が広がること	49	16.7%
	家族を養えたこと	33	11.3%
対等性	対等な夫婦関係が築けること	40	13.7%
	家事の分担ができたこと	13	4.4%
自己実現	生活にメリハリができること	171	58.4%
	社会や人と関わって視野が広がること	154	52.6%
	仕事が楽しい・やりがいがあること	141	48.1%
	自分の技術・経験・資格等を活かせること	123	42.0%
	知り合いや友人の幅が広がったこと	112	38.2%
	働くことで自己肯定感が高まること	110	37.5%
	社会の役に立てること	106	36.2%
	能力を高められること	70	23.9%
	自立した経験基盤が得られること	60	20.5%
その他		3	1.0%

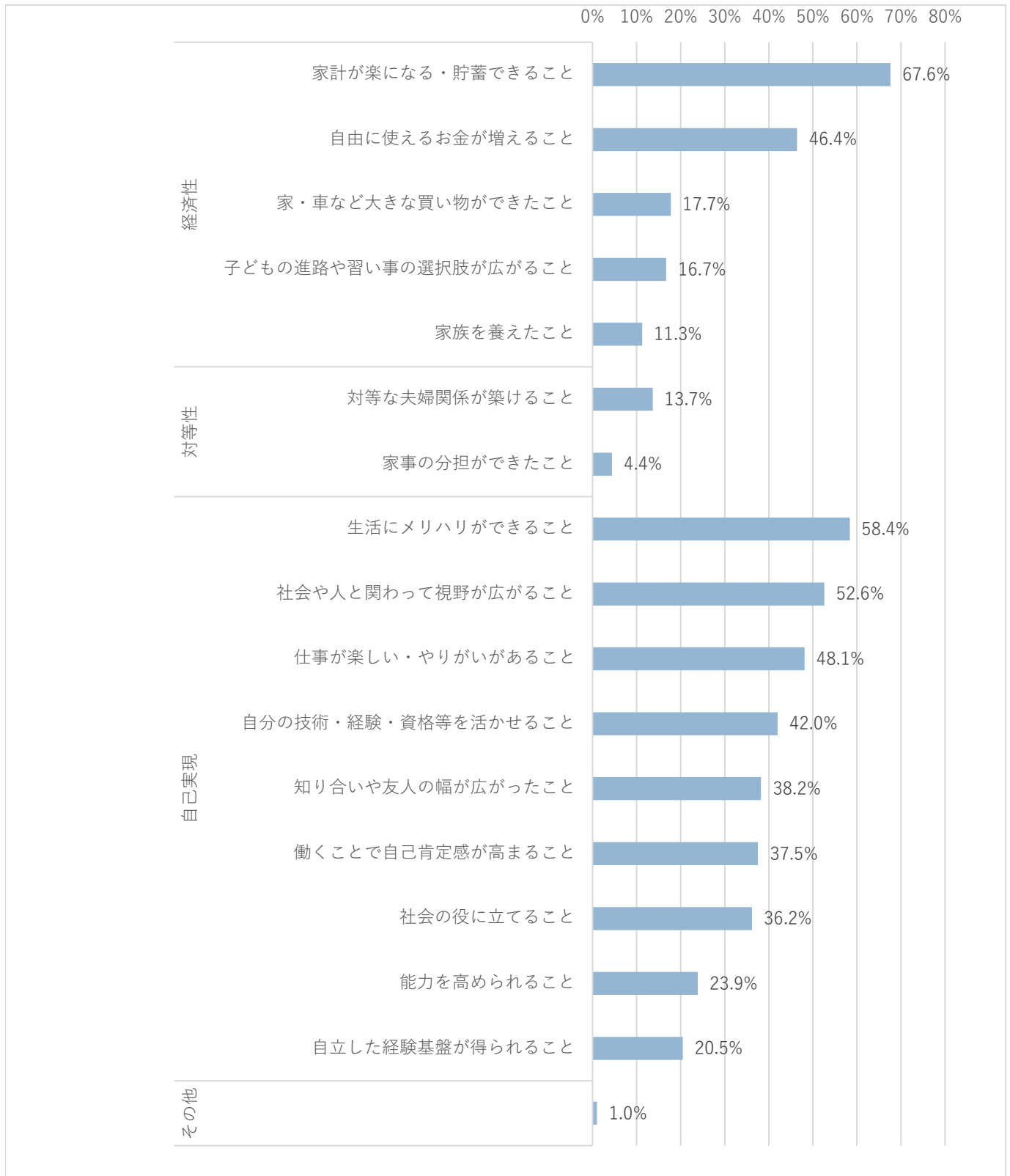


図 12 仕事をしていてよかったと思えること (n=293)

問12 仕事をしていない理由（複数回答）

仕事をしていない理由は、ばらつきが見られたものの、中でも「家事のため」が 28.5%と最も多くを占め、次に「定年を迎えたため」と「育児のため」が 19%、「心身の健康上の理由のため」が 17%と続いた。

表 13 仕事をしていない理由は何か（n=151）

		回答数	割合
自分自身の環境	定年を迎えたため	29	19.2%
	心身の健康上の理由のため	25	16.6%
	資格やスキルを取得中のため	4	2.6%
	学生のため	0	0.0%
育児・介護	育児のため	28	18.5%
	家族の介護や看護のため	17	11.3%
	育児や介護との両立が難しいため	12	7.9%
	出産した（する）ため	5	3.3%
労働環境	条件に合う職場がない（採用されない）ため	14	9.3%
	子どもを預ける環境が整っていないため	14	9.3%
	やりたいことが見つからないため	12	7.9%
	求職活動中のため	4	2.6%
家庭環境	家事のため	43	28.5%
	結婚した（する）ため	7	4.6%
	夫（パートナー）が家に帰るのが遅いため	3	2.0%
	夫（パートナー）や家族の理解がない（反対される）ため	2	1.3%
経済性	夫（パートナー）の給料が十分であるため	21	13.9%
	十分な蓄えがあるため	9	6.0%
その他		23	15.2%

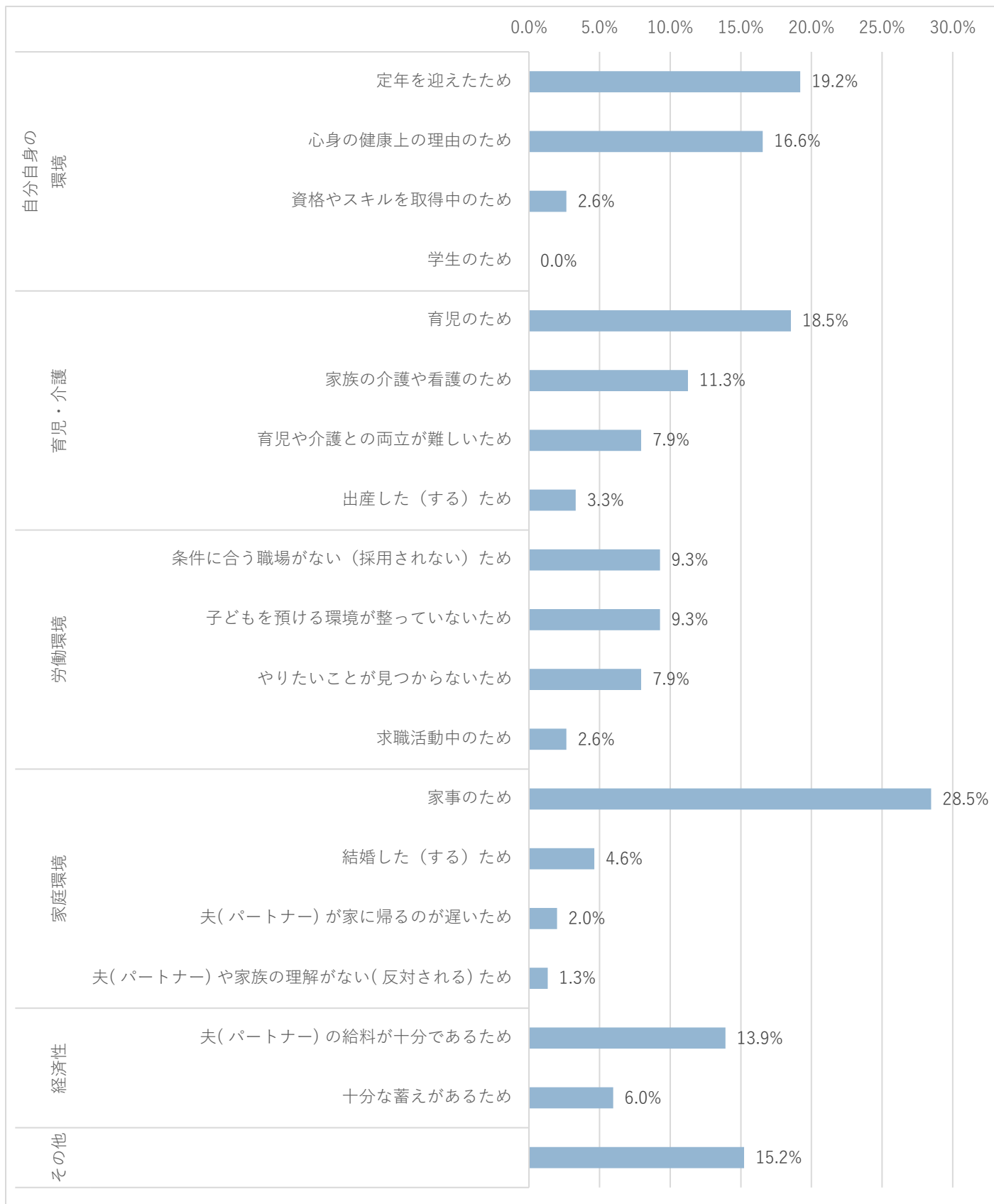


図 13 仕事をしていない理由(n=151)

問13 今後働きたい（働き続けたい）か（単一回答）

今後働きたいかを見ると、「働きたい（働き続けたい）」が 67.7%、「働きたいが働けない」が 8.3%であることから、「働きたい」と考えている人が 7 割強を占めていることがわかる。

また現在、働いていない人のうち、「働きたい」、「働きたいが働けない」との回答が半数近くに及んでいることが分かった。

表 14 今後働きたい・働き続けたいか(n=384)

	個数	割合
働きたい（働き続けたい）	260	67.7%
働きたいが働けない	32	8.3%
働く必要がない	27	7.0%
働きたくない	65	16.9%
総計	384	100.0%

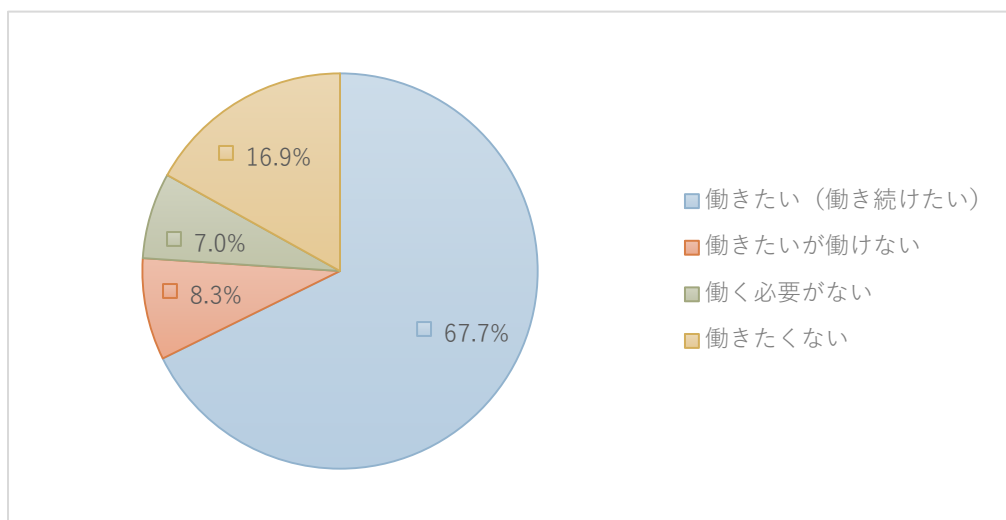


図 14 今後働きたい・働き続けたいか (n=384)

表 14-1 今後働きたい・働きたいか(働いていない人) (n=146)

	していない	していない
働きたい (働きたい)	40	27.4%
働きたいが働けない	30	20.5%
働く必要がない	27	18.5%
働きたくない	49	33.6%
総計	146	100.0%

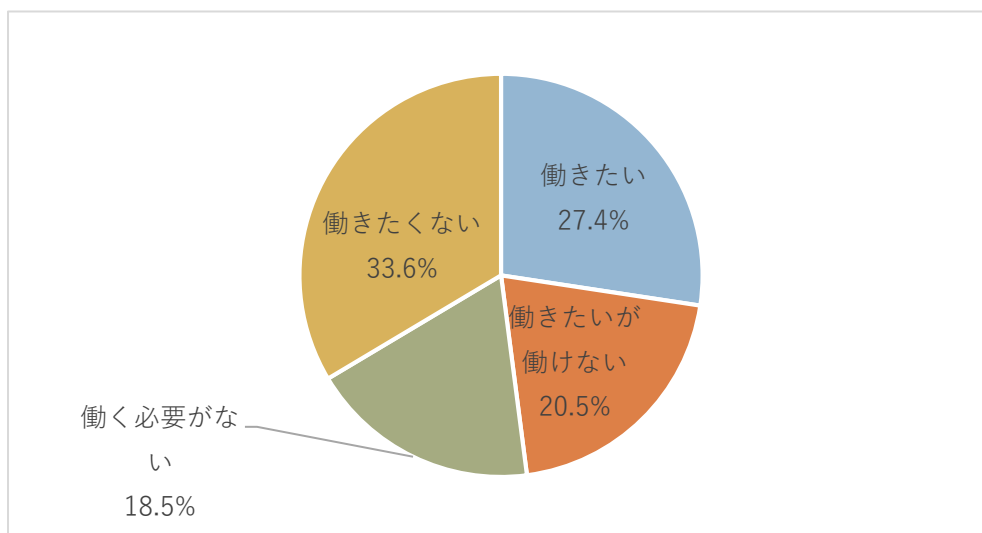


図 14-1 今後働きたい・働きたいか(働いていない人) (n=146)

問14 働きたい（働き続けたい）理由（複数回答）

「家計のため」が最も多く63.5%、次いで「貯蓄するため」が50.8%と、経済面を挙げる人は半数を占めている。また、「生活にメリハリをつけるため」50.4%や「社会や人と関わるため」46.5%といった、私生活とのバランスをとりながら社会と関わることを望む割合が高いように推測される。

表 15 働きたい理由は何か (n=260)

		回答数	割合
経済面	家計のため	165	63.5%
	貯蓄するため	132	50.8%
	自由に使えるお金が欲しいため	123	47.3%
	自立した経済基盤を得るため	52	20.0%
	借金(ローン・奨学金など)返済のため	42	16.2%
自己実現	生活にメリハリをつけるため	131	50.4%
	社会や人と関わるため	121	46.5%
	自分の技術・経験・資格等を活かすため	90	34.6%
	社会の役に立ちたいため	76	29.2%
	仕事が好きなため	71	27.3%
	視野を広げるため	67	25.8%
	能力を高めるため	50	19.2%
	働くことが当然だと思うため	46	17.7%
その他	時間に余裕が出来たため	31	11.9%
	家業のため	11	4.2%
	その他	8	3.1%

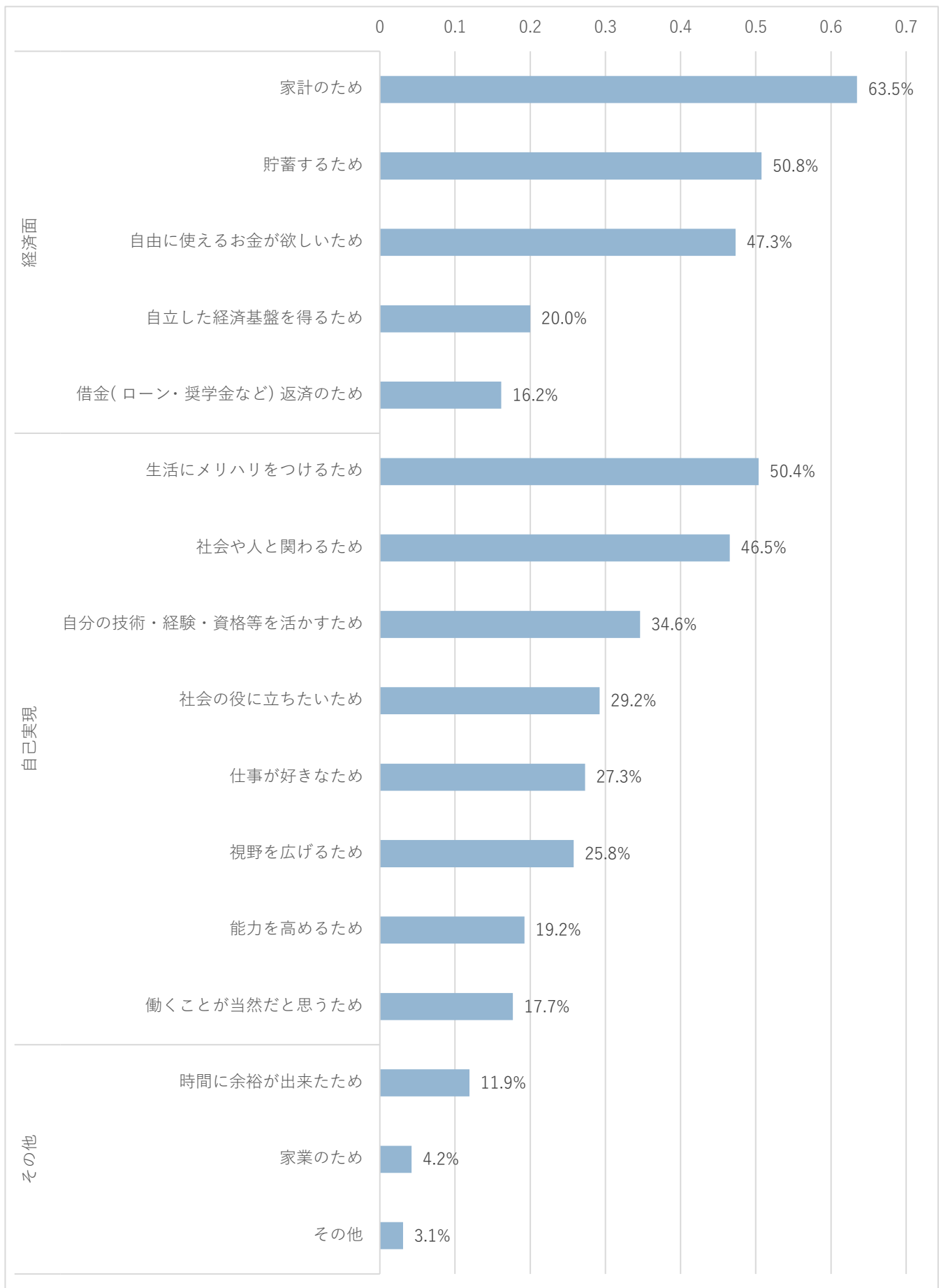


図 15 働きたい理由は何か (n=260)

第三節 回答者のこれまでの就業経験

問16 これまでの就業経験の有無（単一回答）

就業経験の有無を見ると、「ある」と回答した人が 98%である。

表 16 仕事をしたことがあるか(n=442)

	個数	割合
ある	433	98.0%
ない	9	2.0%
総計	442	100.0%

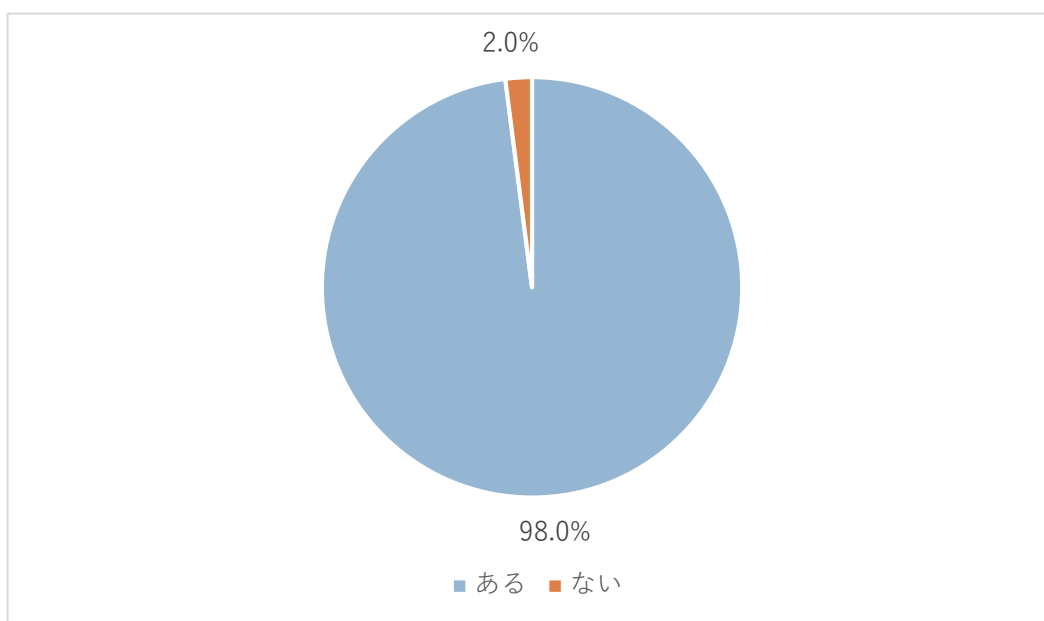


図 16 仕事をしたことがあるか(n=442)

問17 直近の職歴で、仕事を始めた理由やきっかけ（複数回答）

直近の職歴で、仕事を始める理由・きっかけを見ると、「生計を維持・補助するため」が29.3%と最も多く占め、「学業を修了したため」が24.5%、「社会や人と関わって視野を広げるため」と「自由に使えるお金が欲しいため」が23.3%と続いた。

表 17 直近の職歴で、仕事を始める理由・きっかけ (n=433)

		回答	割合
自分自身の環境	学業を修了したため	106	24.5%
	自身の健康が落ち着いたため	10	2.3%
育児・介護	育児が落ち着いたため	63	14.5%
	出産を終えたため	15	3.5%
	介護や看護が落ち着いたため	5	1.2%
労働環境	ライフスタイルにあった職場が見つかったため	63	14.5%
	通勤に便利な職場が見つかったため	49	11.3%
	転職のため	43	9.9%
	子どもを預ける環境が整ったため	13	3.0%
家庭環境	家族の理解が得られたため	31	7.2%
	家事の負担が軽減したため	12	2.8%
	家業だから	0	0.0%
経済性	生計を維持・補助するため	127	29.3%
	自由に使えるお金が欲しいため	101	23.3%
	自立した経済基盤を得るため	62	14.3%
	子どもの教育費のため	62	14.3%
	借金(ローン・奨学金など)返済のため	37	8.5%
	家・車・家電など購入したいものがあった(ある)ため	19	4.4%
	夫(パートナー)の就業状況が変化したため	11	2.5%
	コロナの影響のため	5	1.2%
自己実現	社会や人と関わって視野を広げるため	101	23.3%
	自分の技術・経験・資格などを活かすため	95	21.9%
	仕事が楽しい(やりがいがある)ため	75	17.3%
その他	働くことが当然だと思うため	78	18.0%
	その他	10	2.3%

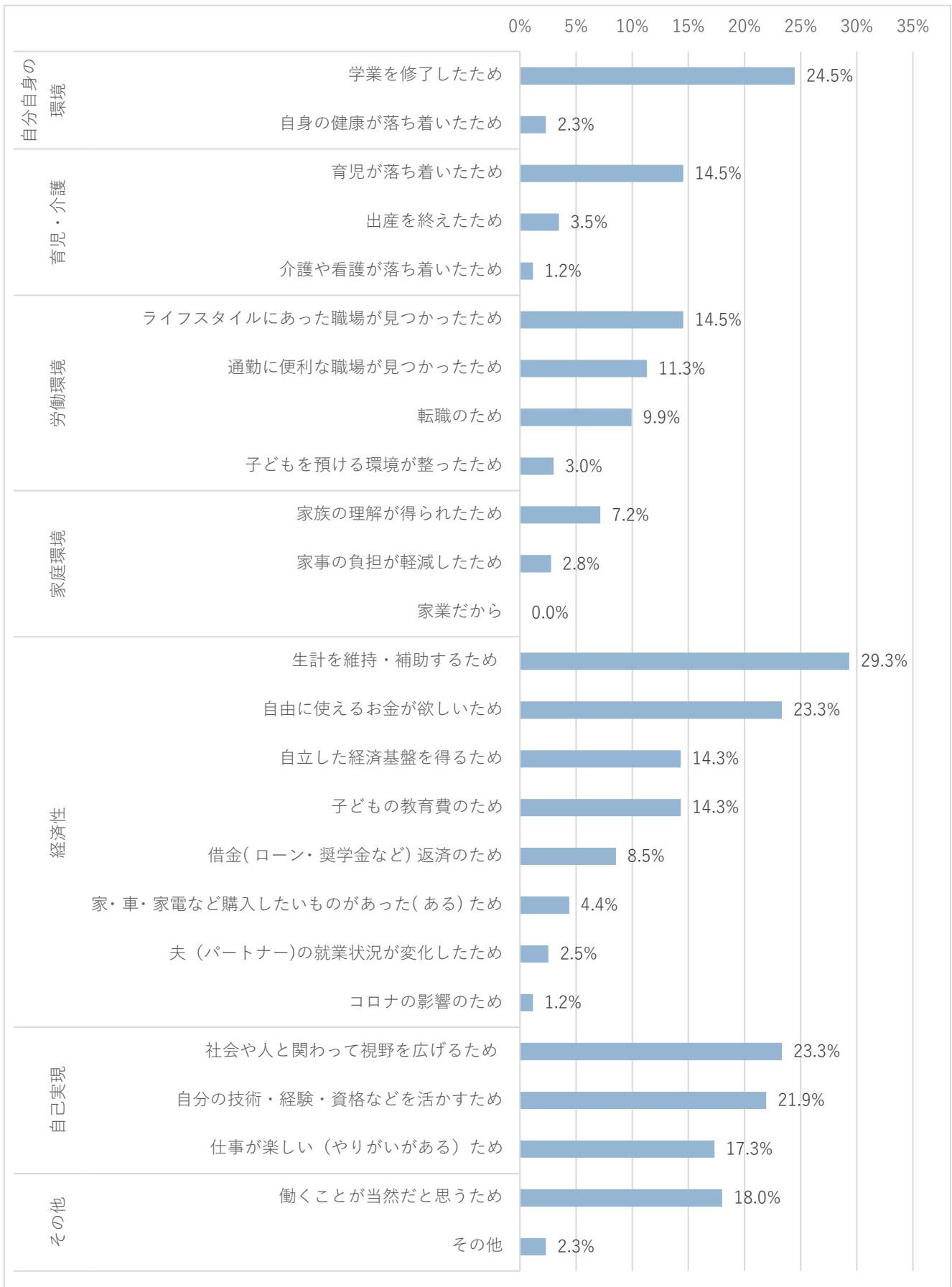


図 17 直近の職歴で、仕事を始める理由・きっかけ (n=433)

問18 退職経験の有無（単一回答）

退職経験の有無を見ると、「ある」が 87.2%と多く占めている。

表 18 退職経験(n=429)

	個数	割合
ある	374	87.2%
ない	55	12.8%
総計	429	100.0%

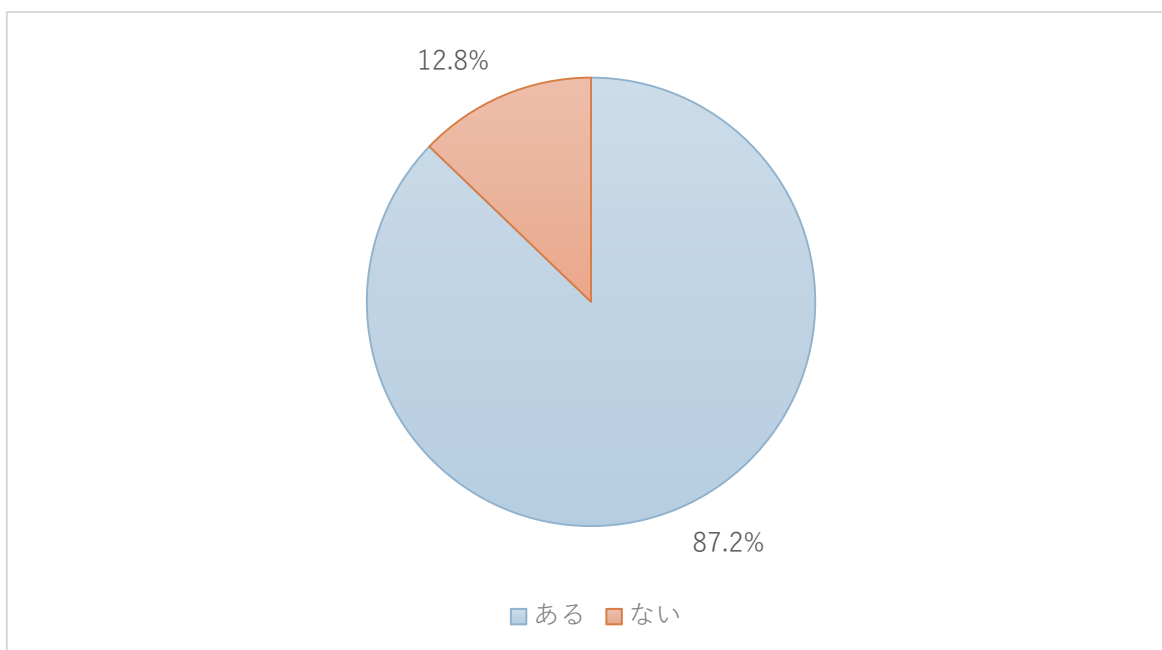


図 18 退職経験(n=429)

問19 退職した理由・きっかけ（複数回答）

退職した理由・きっかけを見ると、「結婚したため(するため)」が40.1%と一番多く占め、次に、「出産するため(したため)」が24.3%と続いた。労働環境よりも結婚や育児をきっかけに退職した割合が高く、6割以上に上ることが分かった。

表 19 退職した理由・きっかけ(n=374)

		回答数	割合
労働環境	転職のため	68	18.2%
	職場の人間関係のため	59	15.8%
	通勤に不便なため	32	8.6%
	仕事にやりがいなかったため	29	7.8%
	長時間労働のため	21	5.6%
	会社の業務不振・倒産など	19	5.1%
	産休・育休・介護休暇等が取りにくかったため	14	3.7%
	仕事が評価されなかったため	13	3.5%
	子どもを預ける環境が整っていないため	10	2.7%
	責任ある立場を任されるのが嫌なため	5	1.3%
	トイレ・空調等、職場の施設環境が悪かったため	4	1.1%
	目標になる先輩がいなかったため	3	0.8%
育児・介護	出産するため(したため)	91	24.3%
	育児のため	30	8.0%
	家族の介護や看護のため	29	7.8%
家庭環境	結婚したため(するため)	150	40.1%
	夫(パートナー)や家族の理解がない(反対される)ため	8	2.1%
	夫(パートナー)が家に帰るのが遅いため	7	1.9%
	家事の分担ができなかったため	6	1.6%
	離婚したため(するため)	1	0.3%
自分自身の環境	心身の健康上の理由のため	53	14.2%
	引っ越しのため	42	11.2%
	やりたいことが他にあったため	32	8.6%
	ライフスタイルに合わなかったため	21	5.6%
	専業主婦になりたかったため	11	2.9%
経済性	コロナの影響のため	6	1.6%
その他		37	9.9%

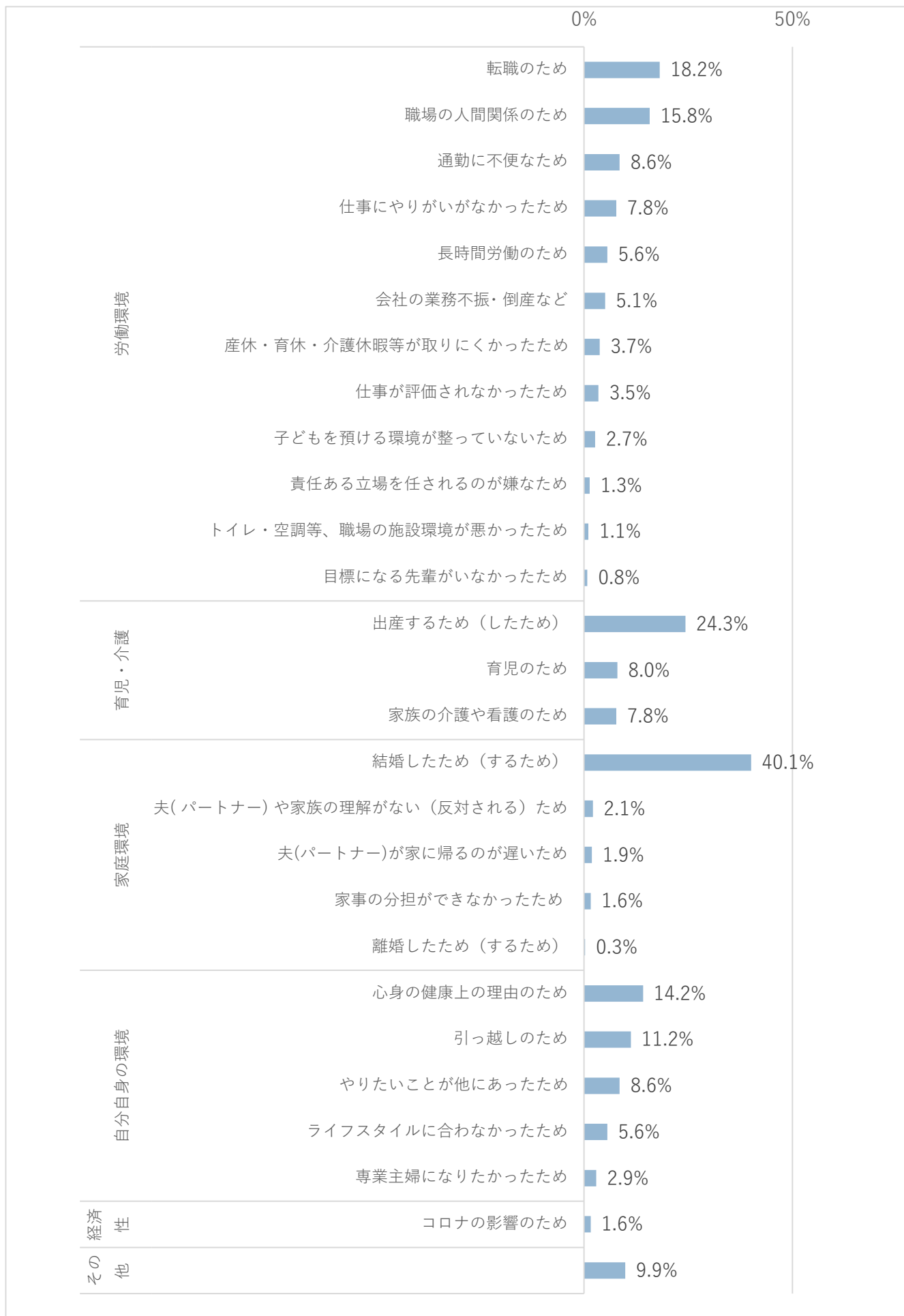


図 19 退職した理由・きっかけ(n=374)

第四節 就業に際し、重視すること

問20 働きたい(理想的な)就労形態(複数回答)

働きたい(理想的な)就労形態を見ると、「正規職員・従業員」が 52.9%、「パート・アルバイト」が 51.6%と大きく二極化した。

表 20 働きたい(理想的な)就労形態は何か(n=446)

	回答	割合
正規職員・従業員	236	52.9%
パート・アルバイト	230	51.6%
自営業主	43	9.6%
内職	24	5.4%
派遣社員	21	4.7%
契約社員・嘱託	20	4.5%
その他	8	1.8%

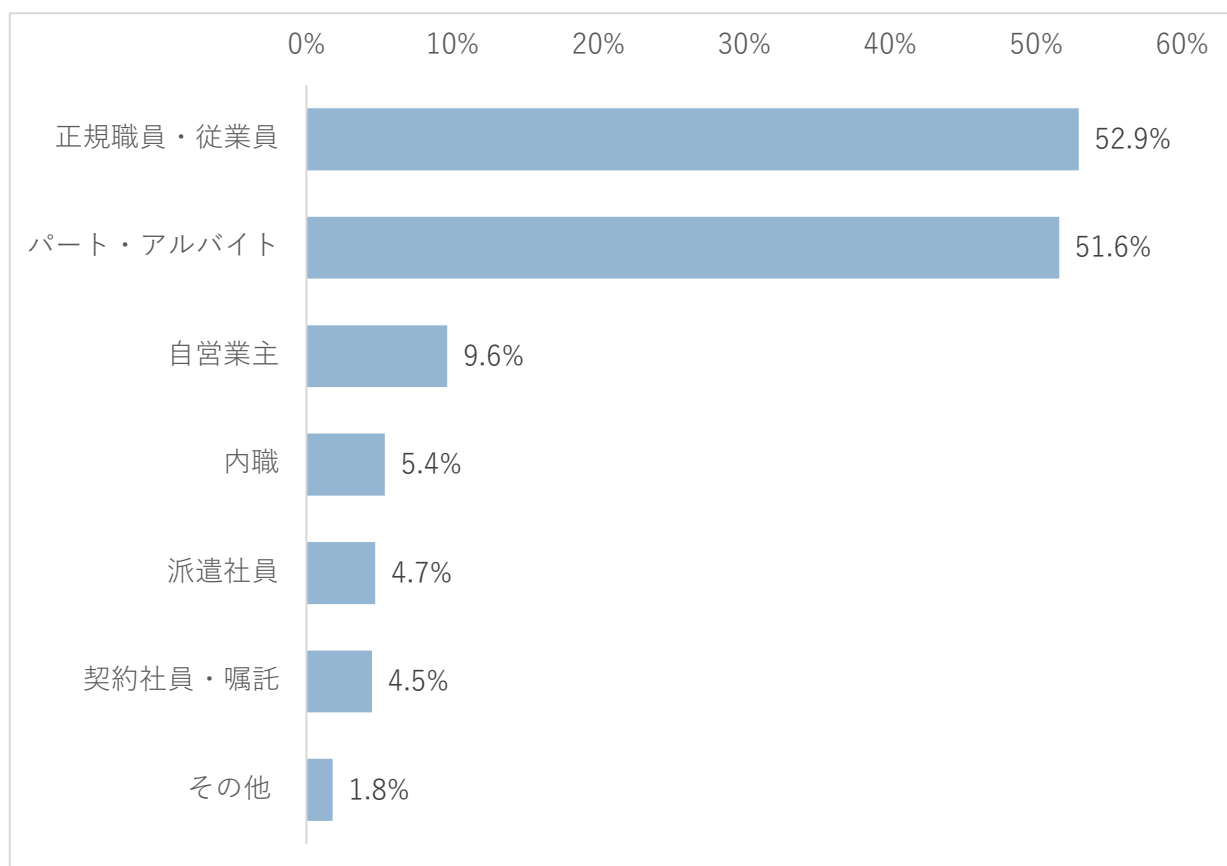


図 20 働きたい(理想的な)就労形態は何か(n=446)

● 20-1 働きたい(理想的な)就労形態と現在の就労状況傾向

希望する就労形態のうち希望の多かった「正規職員・従業員」「パート・アルバイト」を抜き出し、現在の就労状況との関係性を分析したところ、現在働いている人は正規職員を希望する割合が10ポイント上回った。一方で、現在、働いていない人は、圧倒的にパート・アルバイトを希望している割合が高いことがわかった。

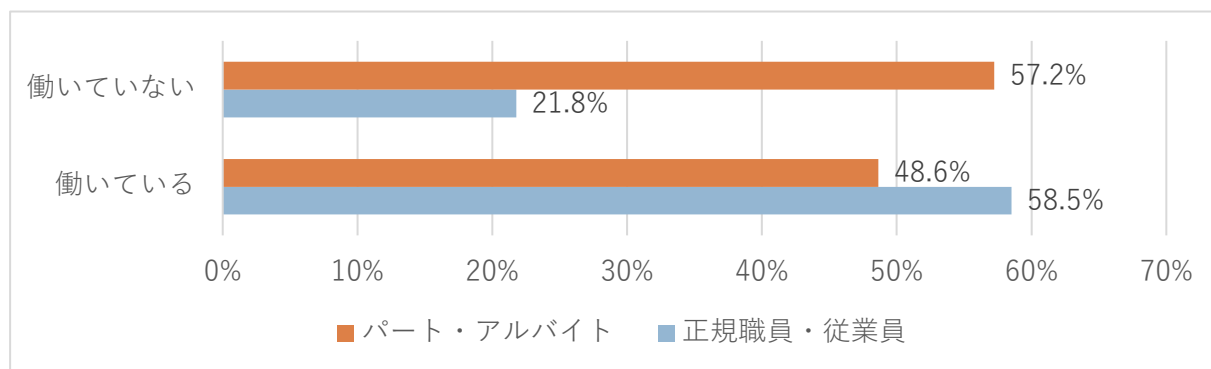


図 20-1 働きたい(理想的な)就労形態と現在の就労状況 (n=445)

● 20-2 働きたい(理想的な)就労形態と小学校区別の傾向

希望する就労形態のうち希望の多かった「正規職員・従業員」「パート・アルバイト」を抜き出し、居住小学校区との関係性を分析したところ、広陵東小学校区と真美ヶ丘第二小学校区では、「正規職員・従業員」を望む割合が高く、その他の小学校区では、「パート・アルバイト」を望む割合が高いことがわかった。

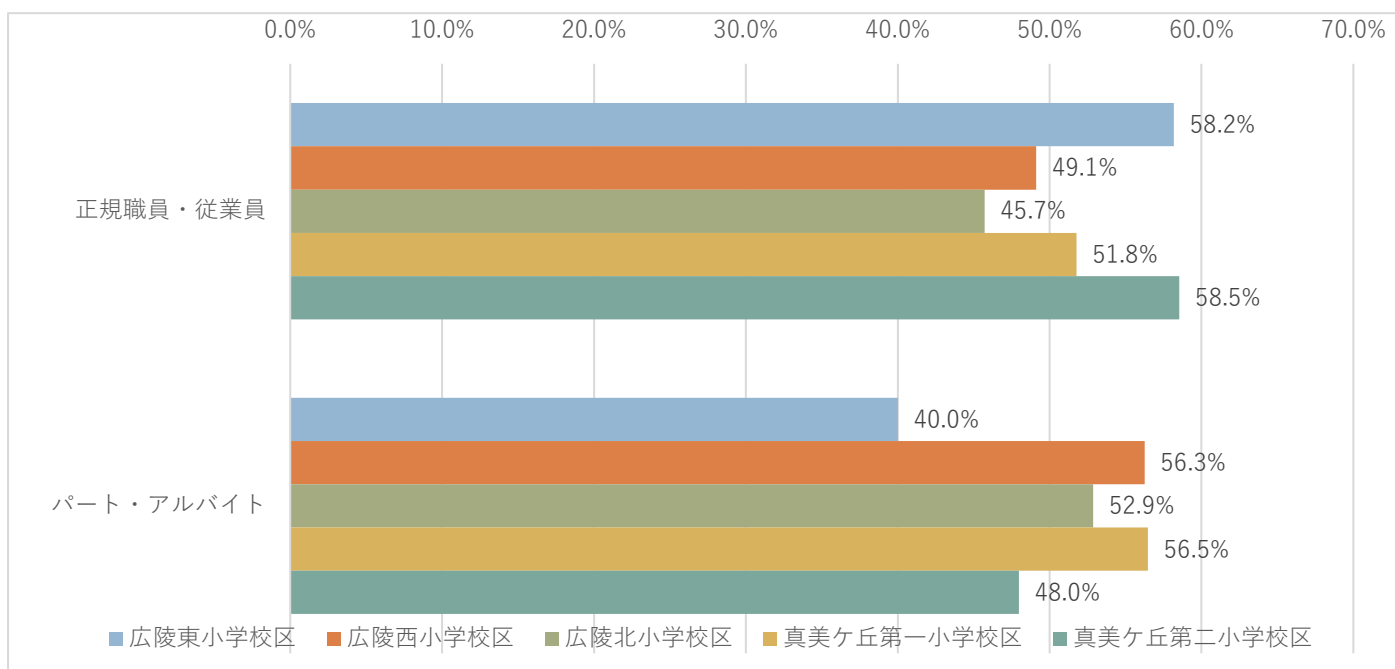


図 20-2 働きたい(理想的な)就労形態と小学校区別の傾向 (n=445)

問21 働きたい(理想的な)職種(複数回答)

働きたい(理想的な)職種は、「事務職」39.9%、「医療・福祉」が29.8%と多く占め、次に「製造」が15.9%、「サービス」が15.2%と続き、他は10%を下回っている。

表 21 働きたい(理想的な)職種は何か(n=446)

	回答	割合
事務職	178	39.9%
医療・福祉	133	29.8%
製造	71	15.9%
サービス	68	15.2%
小売	39	8.7%
飲食	33	7.4%
IT関連	11	2.5%
営業職	9	2.0%
運輸	4	0.9%
建設	4	0.9%
外交員	2	0.4%
その他	44	9.9%

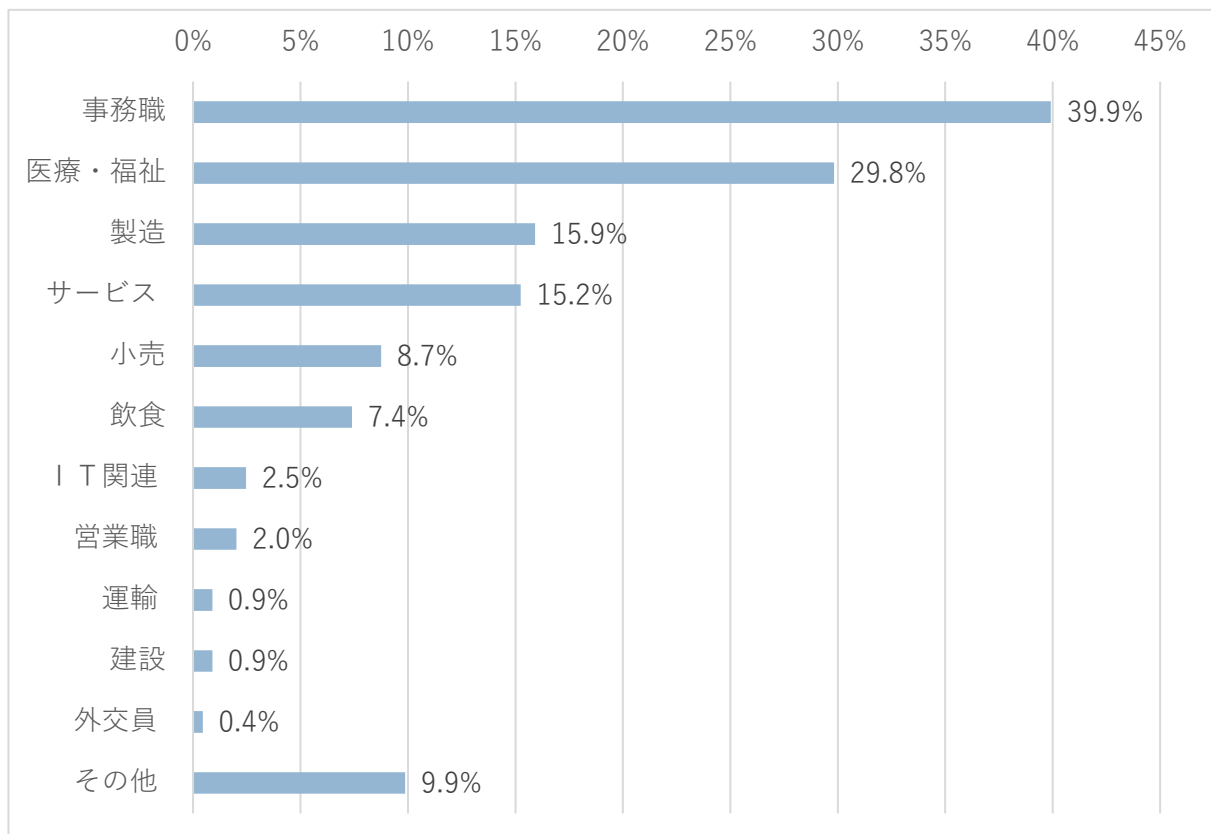


図 21 働きたい(理想的な)職種は何か(n=446)

問22 理想的な通勤時間（片道）について（単一回答）

女性が求める理想的な通勤時間について見ると、「町内の30分未満」が最も多く42.4%、続いて「町外の30分未満」で34.9%であった。町内外合わせると、「30分未満」を求める女性が77.3%いることが分かり、近隣での職場を理想としていた。

表 22 理想的な通勤時間(片道)(n=439)

	回答数	割合
30分未満（町内）	186	42.4%
30分未満（町外）	153	34.9%
30分～1時間	70	15.9%
1時間以上	1	0.2%
在宅の仕事	29	6.6%
総計	439	100.0%

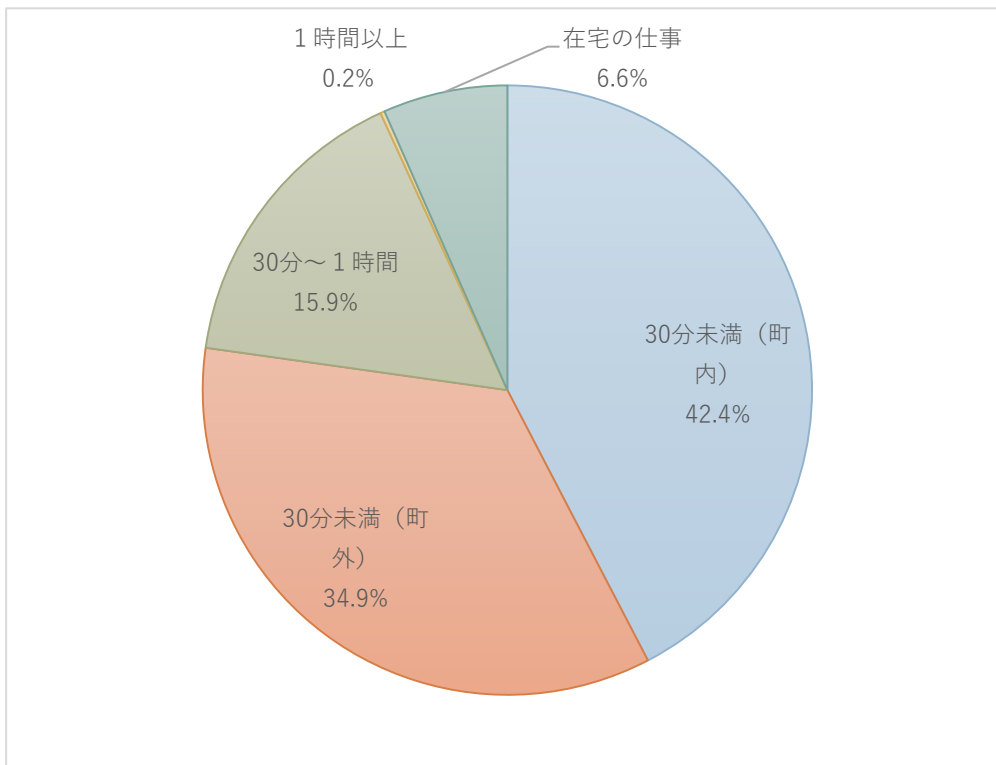


図 22 理想的な通勤時間(片道) (n=439)

問23 職場を決定するために、重要だと思うこと（複数回答）

女性が職場を決定する際に最も重要視していることは「自宅からの距離」の92.5%が最も多く、次いで「ライフスタイルに合った勤務時間」の70.8%、「相談できる上司や同僚」の69.2%である。

表 23 職場を決定する際に重要視すること(n=439)

		回答数	割合
勤務時間・休暇・働き方	ライフスタイルに合った勤務時間	311	70.8%
	休暇が取りやすい職場環境	285	64.9%
	時間単位で取得できる年次有給休暇の取得ができる	125	28.5%
	育児休暇・介護休暇等の充実	110	25.1%
	フレックスタイム制勤務や短時間勤務	78	17.8%
	シフト制勤務	75	17.1%
	テレワークも可能な働き方	51	11.6%
	自宅でできる内職	29	6.6%
	子連れ出勤ができる	20	4.6%
	完全なテレワーク	7	1.6%
	作業場での内職	5	1.1%
立地	自宅からの距離	406	92.5%
	保育施設からの距離	32	7.3%
	商業施設からの距離	1	0.2%
報酬	給料（時給）が高い	247	56.3%
	評価が給料に反映される	180	41.0%
	給料・昇進等に男女格差がない	108	24.6%
環境	相談できる上司や同僚（良好な人間関係）がいる職場環境	304	69.2%
	清潔なトイレ等の設備	210	47.8%
	健康への配慮	204	46.5%
	女性が活躍している職場環境	114	26.0%
	コロナ対策の徹底	101	23.0%
制度	雇用条件が明確であること	290	66.1%
	就業規則・賃金規定等の定めがあること	281	64.0%
	研修制度があること	81	18.5%
	インターンシップ制度があること	16	3.6%
仕事・その他	知識や技術が習得できること	150	34.2%
	社会貢献につながる仕事内容	145	33.0%
	社風・社長の人柄	128	29.2%
	正社員としての雇用	118	26.9%
	責任のある仕事内容	102	23.2%
	仕事の将来性	100	22.8%
	その他	12	2.7%

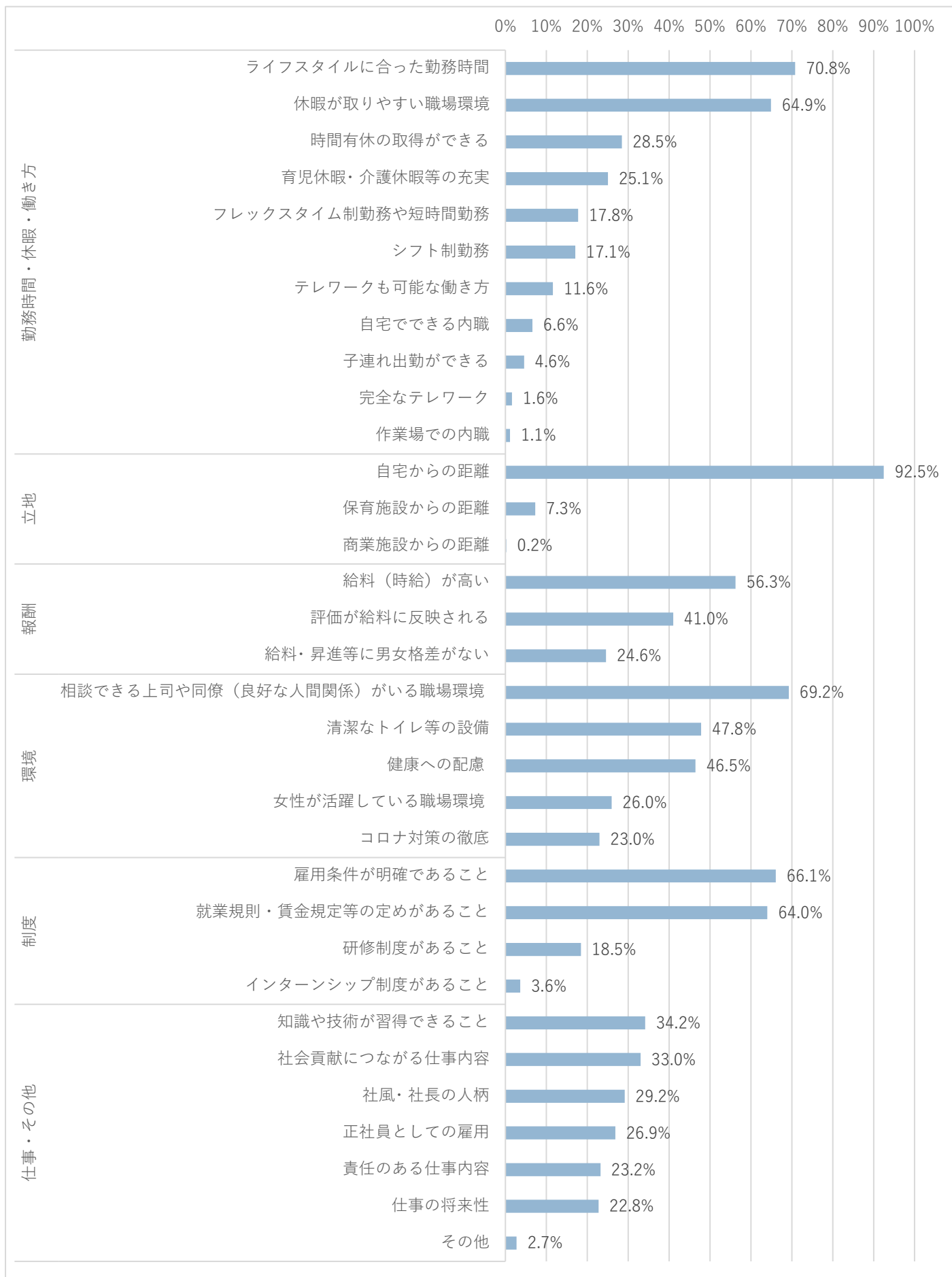


図 23 職場を決定する際に重要視すること(n=439)

問24 勤務したい時間帯（複数回答）

勤務したい時間帯は、「10 時台」から「15 時台」までが 80%を超えていた。中でも「10 時」は最も割合の高い 95.5%を占めていた。

表 24 勤務したい時間帯(n=425)

	回答数	割合
6 時台	2	0.5%
7 時台	3	0.7%
8 時台	61	14.4%
9 時台	326	76.7%
10 時台	406	95.5%
11 時台	405	95.3%
12 時台	365	85.9%
13 時台	382	89.9%
14 時台	384	90.4%
15 時台	362	85.2%
16 時台	290	68.2%
17 時台	184	43.3%
18 時台	36	8.5%
19 時台	11	2.6%
20 時台	7	1.6%
21 時台	6	1.4%
22 時台	4	0.9%
23 時台	1	0.2%
24 時台	1	0.2%
総計	425	100.0%

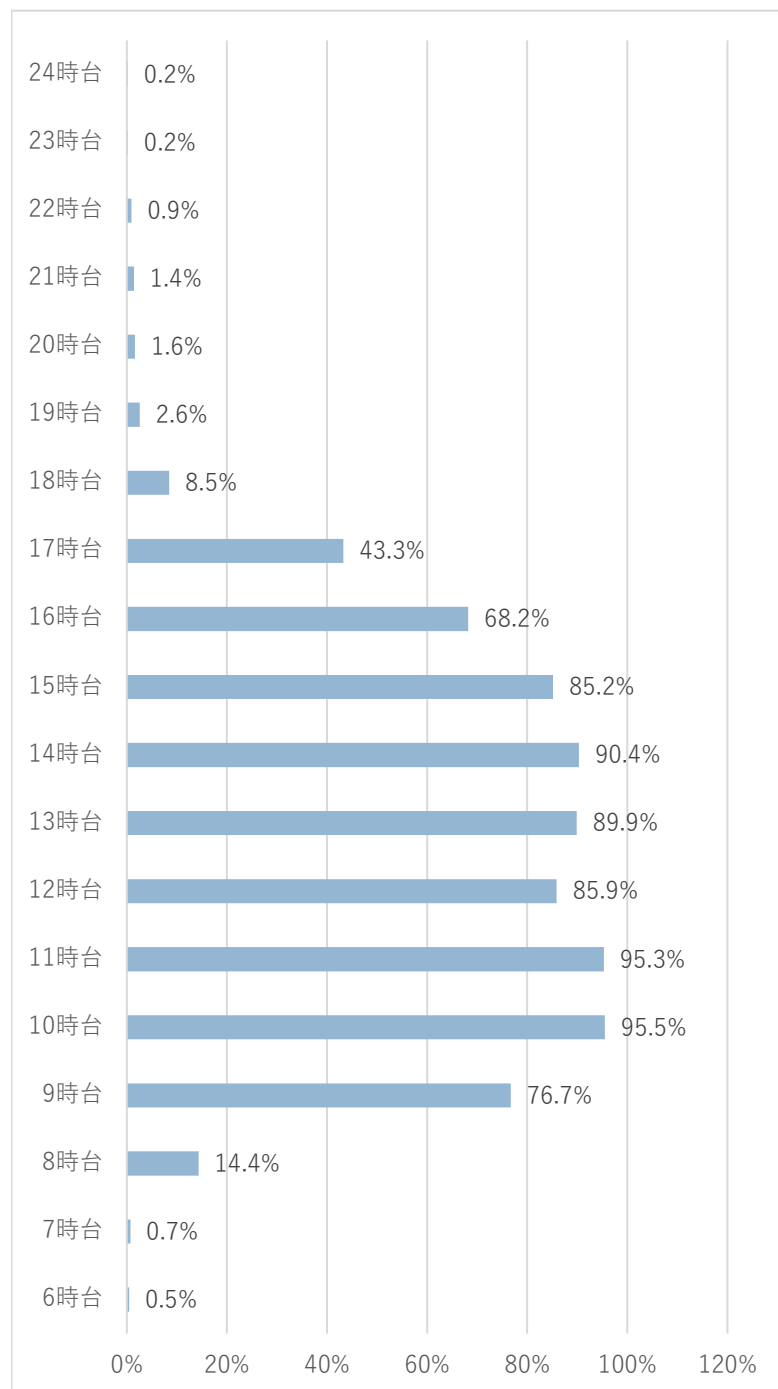


図 24 勤務したい時間帯 (n=425)

問25 週に働きたい回数・働きたい時間（単一回答）

① 一週間の内に何日働きたいか

「週に5日働きたい」と考えている女性が最も多い38.8%を占めており、次いで「週に4日」の35.3%、「週に3日」の19.8%という結果になった。

表 25—1 週に働きたい回数 (n=425)

	回答数	割合
1日	3	0.7%
2日	16	3.8%
3日	84	19.8%
4日	150	35.3%
5日	165	38.8%
6日	7	1.6%
総計	425	100.0%

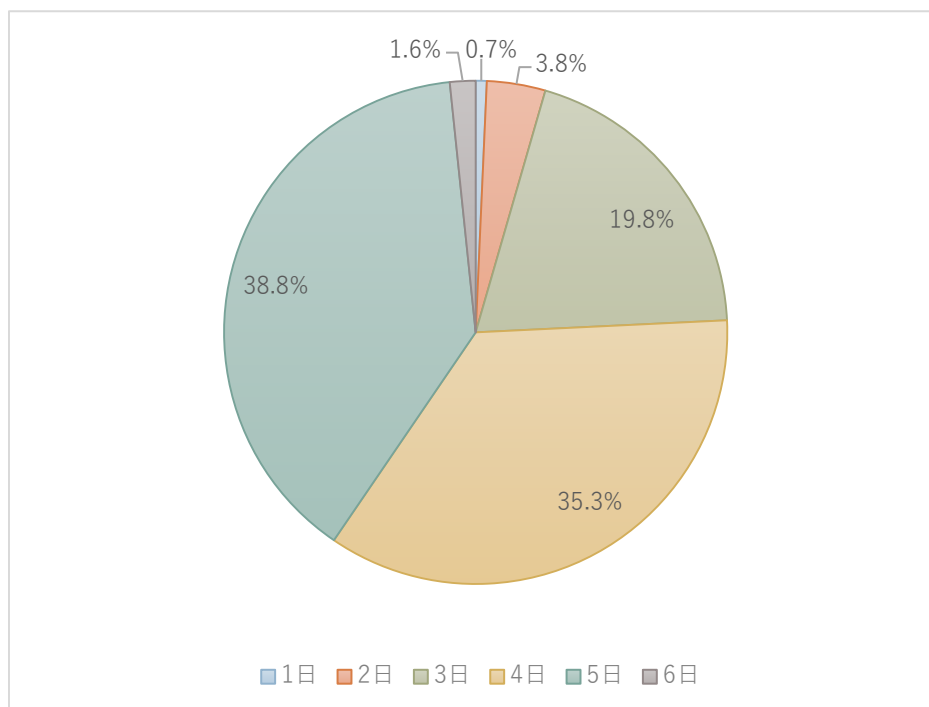


図 25—1 週に働きたい回数 (n=425)

② 一日に何時間働きたいか

女性の1日に理想とする労働時間は「8時間台」が最も多く27.3%を占めており、次いで「6時間台」の21.5%であった。

表 25-2 1日に何時間働きたいか(n=410)

	回答数	割合
2時間台	3	0.7%
3時間台	15	3.7%
4時間台	36	8.8%
5時間台	73	17.8%
6時間台	88	21.5%
7時間台	74	18.0%
8時間台	112	27.3%
9時間台	6	1.5%
10時間以上	3	0.7%
総計	410	100%

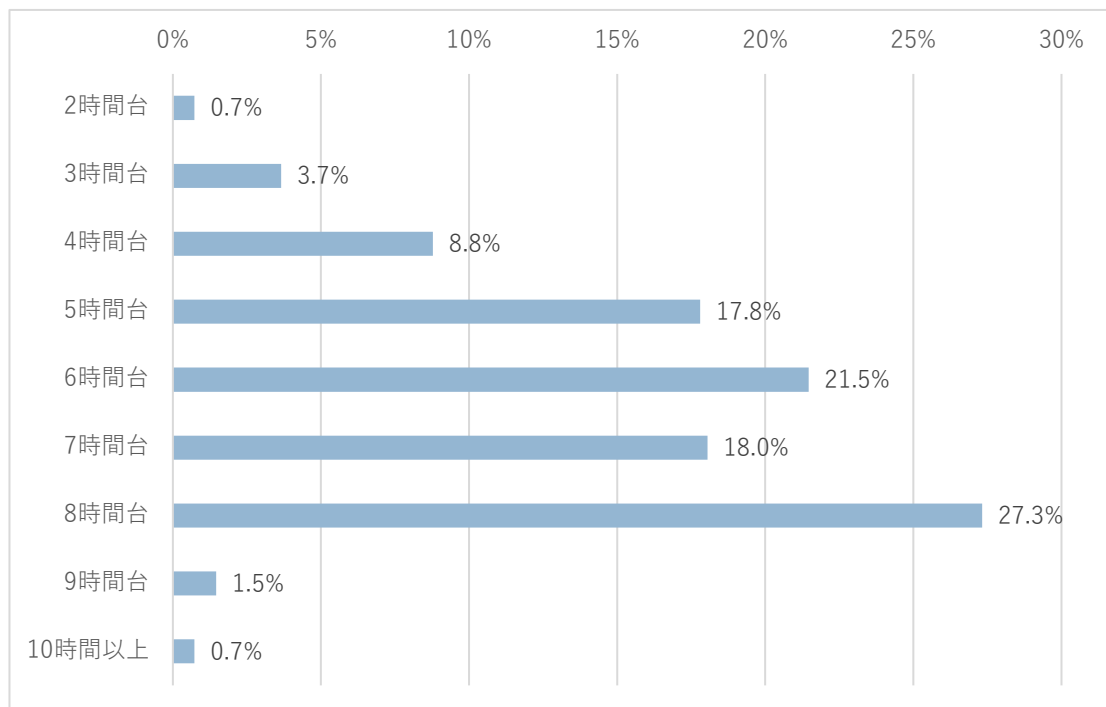


図 25-2 1日に何時間働きたいか(n=410)

問26 就職活動の際、利用しやすいメディア（複数回答）

女性が就職活動の際に利用しやすいメディアとして最も多い割合を占めているのは「求人サイト」で57.3%、次いで「ハローワーク」で41.1%であった。

表 26 就職活動の際、利用しやすいメディア(n=426)

	回答数	割合
求人サイト	244	57.3%
ハローワーク	175	41.1%
新聞・チラシ	125	29.3%
口コミ・知人の紹介	117	27.5%
企業ホームページ	107	25.1%
求人誌	84	19.7%
SNS 等	74	17.4%
その他	6	1.4%
総計	426	100.0%

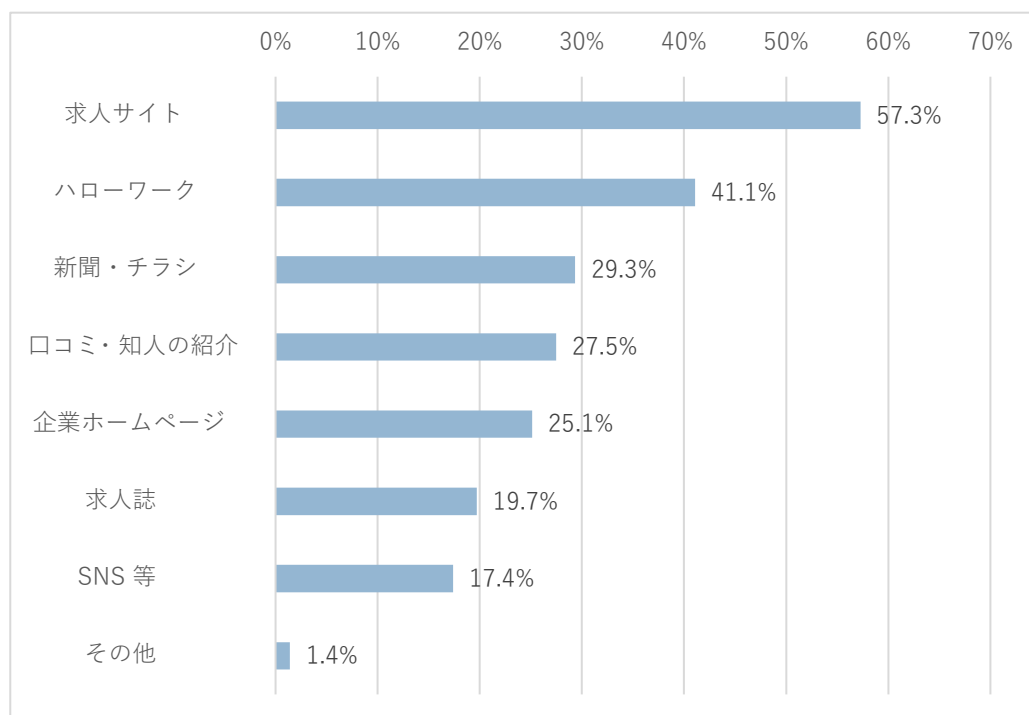


図 26 就職活動の際、利用しやすいメディア(n=426)

本節では、自身のライフコースや、理想のライフコースについて下記の12コースのどのコースに当てはまるか質問した。

1. ①仕事をする(した)② 結婚(・事実婚など)をする(した)③ 仕事は続ける(続けた)④ 子どもを持つ(持った)⑤ 仕事は続ける(続けた)→以下:結婚・育児・仕事継続
2. ①仕事をする(した)② 結婚(・事実婚など)をする(した)③ 仕事は続ける(続けた)④ 子どもを持つ(持った)⑤ 復職はする(した)→以下:結婚・育児・復職
3. ①仕事をする(した)② 結婚(・事実婚など)をする(した)③ 仕事は続ける(続けた)④ 子どもを持つ(持った)⑤ 仕事は辞める(辞めた)→以下:結婚・育児専門
4. ①仕事をする(した)② 結婚(・事実婚など)をする(した)③ 仕事は続ける(続けた)④ 子どもを持たない(いない)→以下:結婚・仕事継続
5. ①仕事をする(した)② 結婚(・事実婚など)をする(した)③ 仕事は辞める(辞めた)④ 復職はする(した)→以下:結婚・離職・復職
6. ①仕事をする(した)② 結婚(・事実婚など)をする(した)③ 仕事は辞める(辞めた)④ 復職はしない(しなかった)→以下:結婚・離職
7. ①仕事をする(した)② 結婚(・事実婚など)をしない(しなかった)→以下:未婚・仕事継続
8. ①仕事をしない(しなかった)② 結婚(・事実婚など)をする(した)③ 子どもを持つ(持った)④就職はする(した)→以下:無職・結婚・育児・就職
9. ①仕事をしない(しなかった)② 結婚(・事実婚など)をする(した)③ 子どもを持つ(持った)④就職はしない(しなかった)→以下:無職・結婚・育児専門
10. ①仕事をしない(しなかった)② 結婚(・事実婚など)をする(した)③ 子どもを持たない(いない)→以下:無職・結婚・育児無し
11. ①仕事をしない(しなかった)② 結婚(・事実婚など)をしない(しなかった)→以下:無職・未婚
12. 上のどれにもあてはまらない→以下:当てはまらない

問27 回答者が歩んだ「実際の」または「歩みそうな」ライフコース（単一回答）

女性が実際に歩みそうなライフコースとして最も多い割合を占めたのは「結婚・育児・仕事継続」で24.4%、次いで「結婚離職・復職」で18.7%、「結婚離職」で15.9%であった。

表 27 実際・歩みそうなライフコース(n=434)

	個数	割合
結婚・育児・仕事継続	106	24.4%
結婚・育児・復職	49	11.3%
結婚・育児専業	48	11.1%
結婚・仕事継続	19	4.4%
結婚・離職・復職	81	18.7%
結婚・離職	69	15.9%
未婚・仕事継続	38	8.8%
無職・結婚・育児・就職	8	1.8%
無職・結婚・育児専業	9	2.1%
無職・結婚・育児無し	0	0.0%
無職・未婚	2	0.5%
当てはまらない	5	1.2%

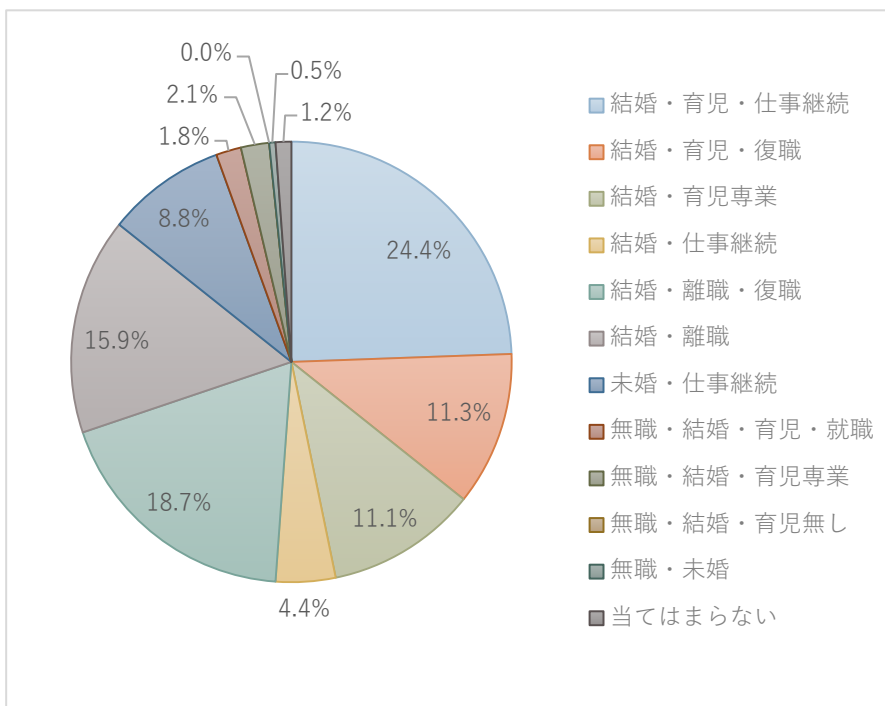


図 27 実際・歩みそうなライフコース (n=434)

問28 回答者の「理想の」ライフコース（単一回答）

女性の理想のライフコースの結果としては「結婚・育児・仕事継続」が最も多い46%、次いで「結婚・育児・再就職」で22.6%で、2つのコースで7割弱を占めた。

表 28 理想のライフコース (n=420)

	個数	割合
結婚・育児・仕事継続	193	46.0%
結婚・育児・復職	95	22.6%
結婚・育児専業	29	6.9%
結婚・仕事継続	10	2.4%
結婚・離職・復職	36	8.6%
結婚・離職	22	5.2%
未婚・仕事継続	13	3.1%
無職・結婚・育児・就職	4	1.0%
無職・結婚・育児専業	5	1.2%
無職・結婚・育児無し	0	0.0%
無職・未婚	5	1.2%
当てはまらない	8	1.9%
総計	420	100%

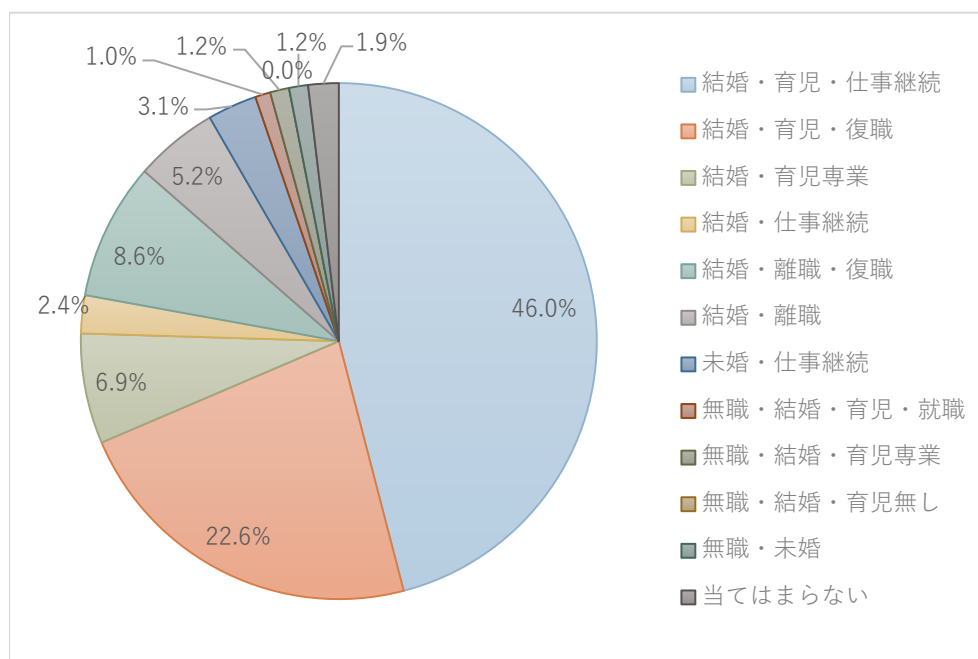
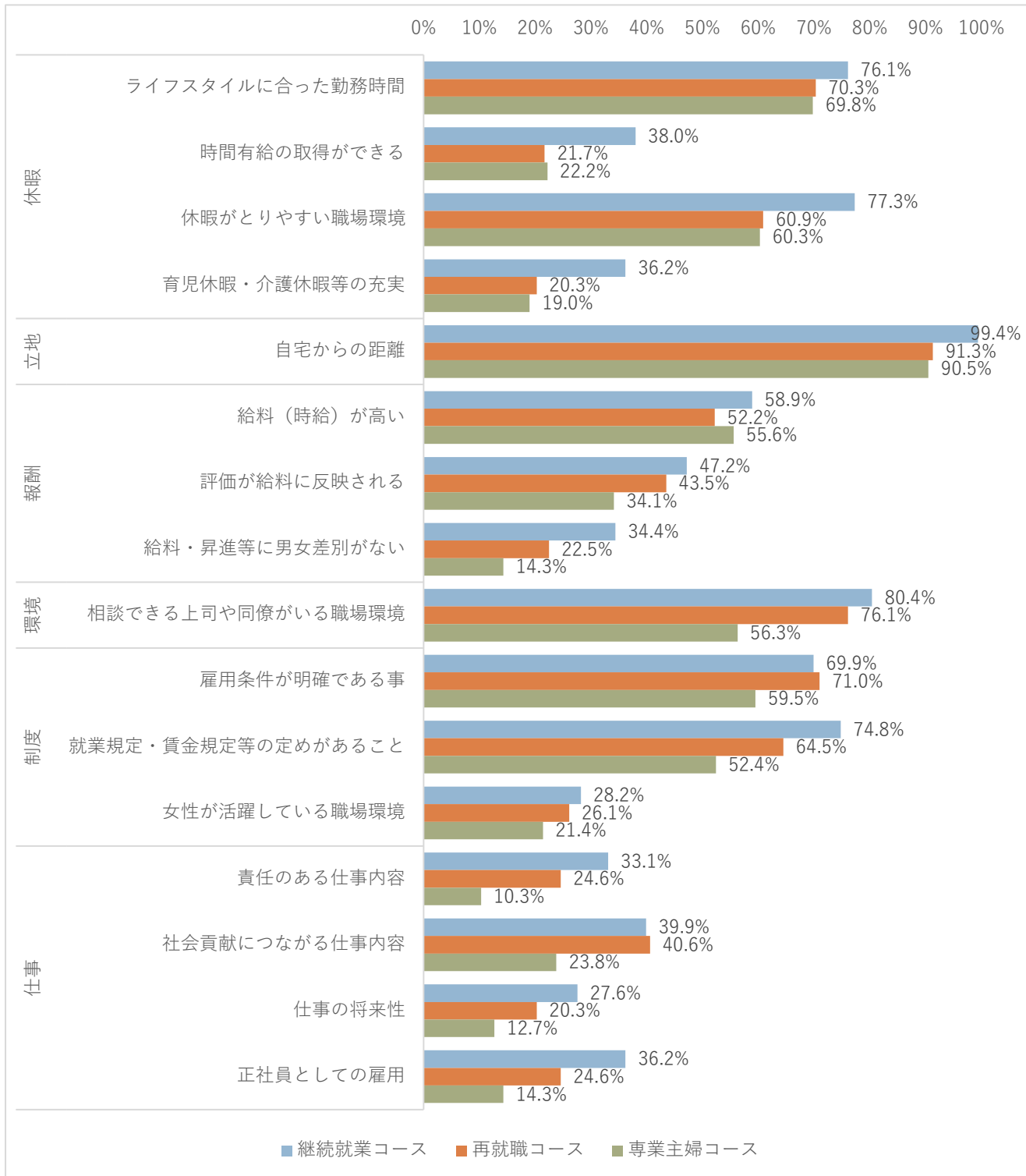


図 28 理想のライフコース (n=420)

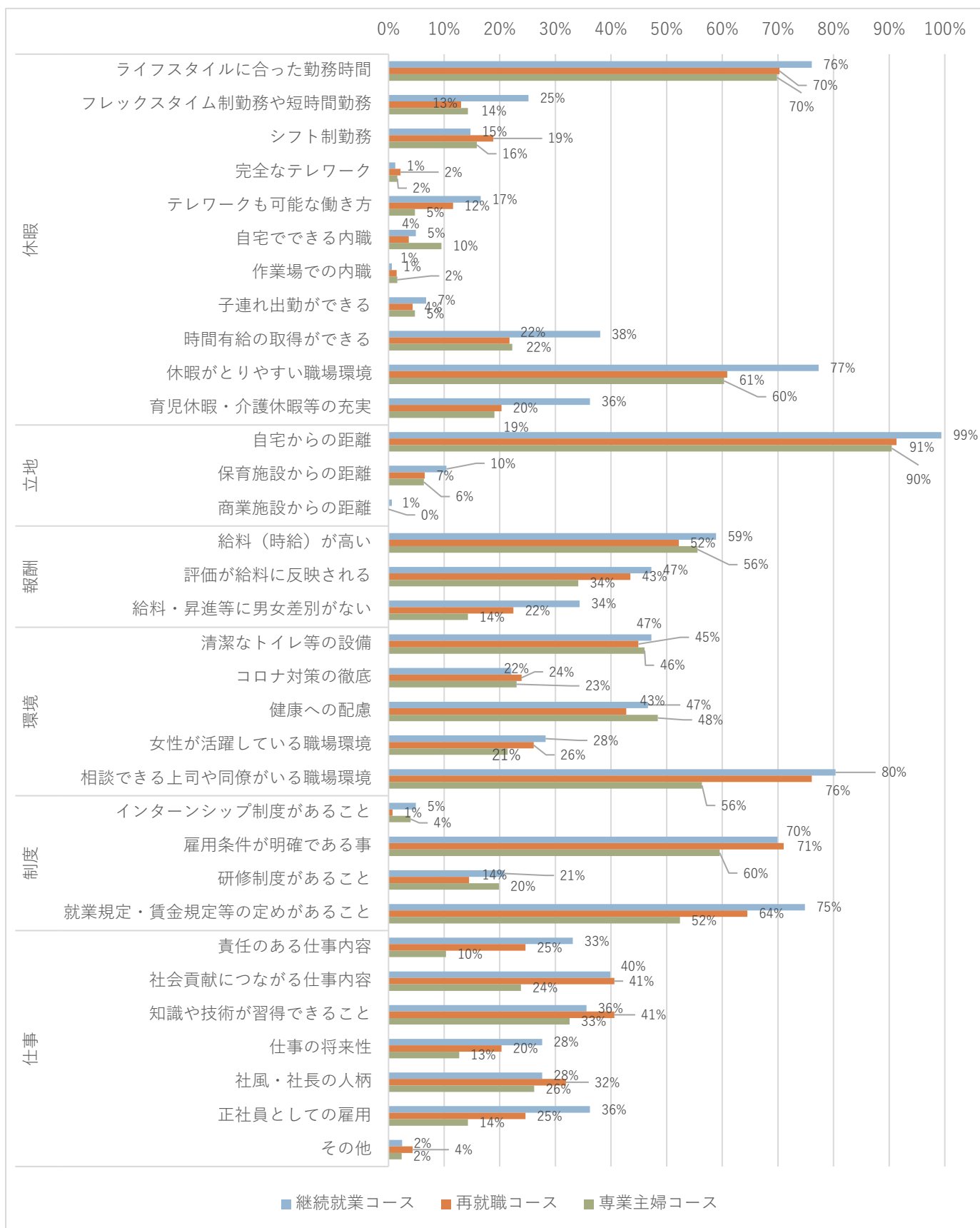
問 23 職場を決定する際に重要視すること×問 27 実際の（歩みそうな）ライフコース 抜粋

継続就業コース、再就職コース、専業主婦コースに分類し※分析したところ、いずれのコースも自宅からの距離は最重要視していることがわかる。一方で、相談できる環境や雇用条件、賃金規定は現在、就業している人の回答が専業主婦コースに比べると圧倒的に高いことがわかった。

※ P46 の分類のうち、1・4・7 を継続就業コース、2・5・8 を再就職コース、3・6・9 を専業主婦コースとした。



【参考】問 23 職場を決定する際に重要視すること×問 27 実際の（歩みそうな）ライフコース
全回答



問29 働き続けるために、夫（パートナー）や家族に求めるもの（複数回答※3つまで）

女性が働き続けるためにパートナーや家族に求めるものとして「夫（パートナー）の理解や協力」が最も多い72.9%を占めており、次いで「夫（パートナー）や家族が健康であること」が62.3%、「夫（パートナー）の家事や育児、介護への参加」が55.3%であった。

表 29 働き続けるために、パートナーに求めるもの(n=432)

	回答数	割合
夫（パートナー）の理解や協力	315	72.9%
夫（パートナー）や家族が健康であること	269	62.3%
夫（パートナー）の家事や育児、介護への参加	239	55.3%
夫（パートナー）や家族との円滑なコミュニケーション	133	30.8%
夫（パートナー）以外の家族の理解や協力	118	27.3%
夫（パートナー）以外の家族の家事や育児、介護への参加	38	8.8%
家事や育児へ参加してくれる父母（養父母）との同居	10	2.3%
その他	6	1.4%
総計	432	100.0%

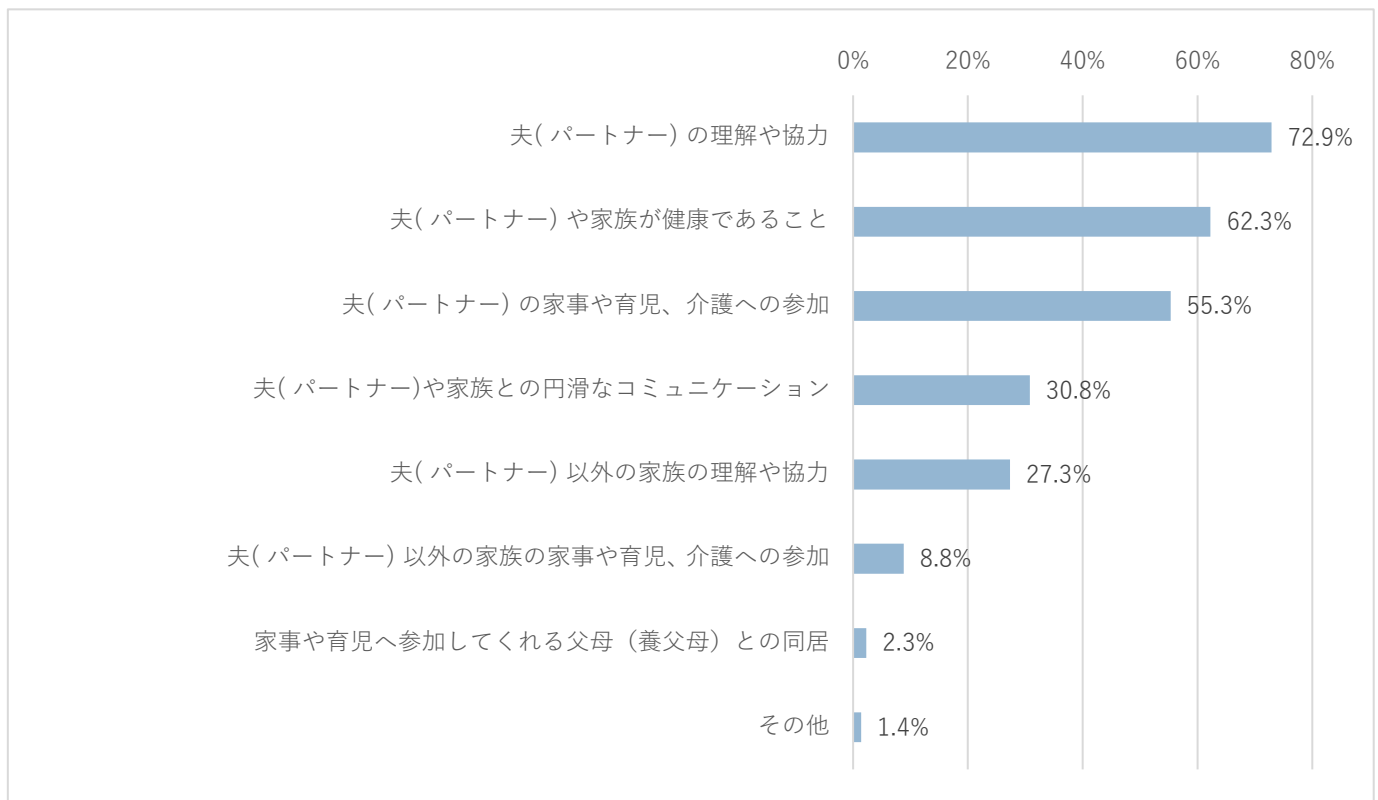


図 29 働き続けるために、パートナーに求めるもの(n=432)

問30 働き続けるために、行政に求めるもの（複数回答）※ただし、3つまで

女性が働き続けるために、行政に求めることとして、最も多い割合を占めているのが「保育所・放課後子ども育成教室などの充実」で50%の半数を占めている。次いで「介護施設や介護に関する相談窓口などの充実」で28%を占めていた。

この結果から女性は行政に育児や介護などのサポートを行政に求めていることが分かった。

表 30 働き続けるために、行政に求めるもの(n=412)

		回答数	割合
育児・介護 サポート	保育所・放課後子ども育成教室などの充実	204	49.5%
	病児・病後児保育の充実	107	26.0%
	家政婦等の家事サポートの普及	66	16.0%
	ファミリーサポート等の育児サポートの普及	71	17.2%
	介護施設や介護に関する相談窓口などの充実	117	28.4%
	家事育児の分担に関するセミナーやワークショップの開催	10	2.4%
仕事	現在の仕事や再就職などに関する相談窓口の充実	100	24.3%
	町内への企業の誘致	88	21.4%
	起業する人への支援（相談窓口や助成制度など）	25	6.1%
医療	医療施設や健康に関する相談窓口などの充実	86	20.9%
その他	その他	26	6.3%

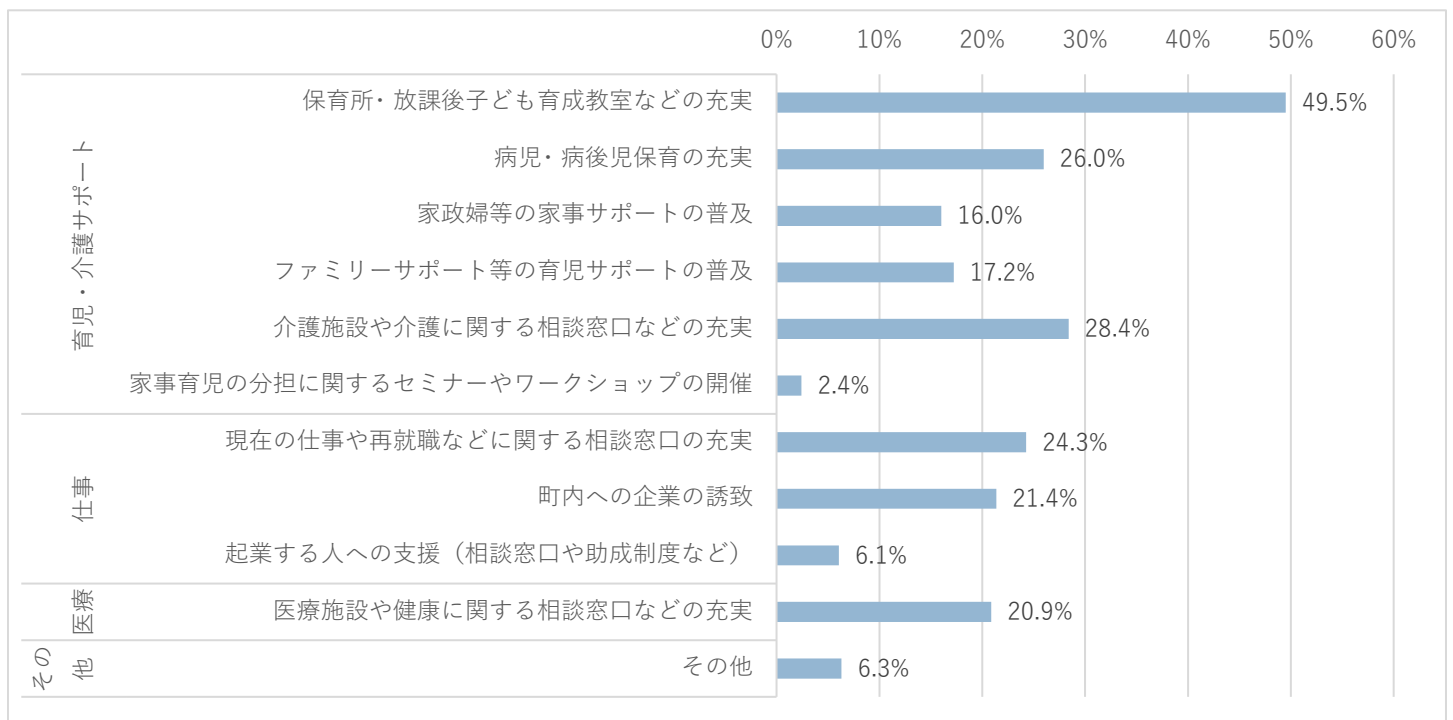


図 30 働き続けるために、行政に求めるもの(n=412)

その他自由記述 一意見一

夫の協力	夫の協力や理解が大切である
	女性が結婚しても働き続けるには、第一に夫の理解や協力、家事や育児、介護の参加が必要
	男性が当たり前のように家事等に取り組んでほしい
	男女関係なく家事育児をするのが当たり前の世の中になっていくべき
	パートナーの職場も子どもがいる家庭（小学生まで）にも協力して配慮してほしい
	家事の負担を担うのは女という意識を変えるには、家事を担える制度（夫、家族でない）も必要
	男性も女性と同様に家事、育児に参加できる男性側の就労状況が不可欠
	男性の働き方から見直すべきで、有給休暇の取りやすい環境、社会を作るべき
	女性就労のために職場の環境等を整える
	夫・パートナーの家事や育児に対する理解だけでなく、職場の理解も必要（夫の育休など）
	男性（夫）の給料アップしてあげてほしい
	夫（パートナー）が定時退社し、家事負担を補い合うことが望ましい
働き方	フレックスタイム制がある職場など、多様な働き方ができる職場が増えると嬉しいです
	どんな職業でも短時間勤務の雇用を増やしてほしい
	有給が1時間単位で取れると助かる
	勤務時間に選択肢を増やしてほしい
	在宅とリモートワークやフレックスを取り入れた勤務体制が理想
	継続して働いて子育てをしていくことは、困難な女性も多いので多様な働き方が選択できるよう望みます。
	短時間正社員制度がもっと普及してほしい
	自分で勤務時間を決めて、能力によって給料を変えてほしい
時短勤務の適用が中学生位に延びればよいのと思う	
育休制度等	何かあった時休みやすい会社
	出産後の職場復帰後も正社員で働ける職場を増やしてほしい
	子どもが体調不良で急に仕事に行けなくなった時に対応していただける職場だと、安心して日々働ける
	結婚や出産等のライフスタイルの変化に応じて、就業時間等を企業が柔軟に対応してくれると長く働きやすくなると思う
	子育てをしている女性への理解ができる職場であってほしい
	急なお迎え等お休み等あるが、すぐに引き継げる環境であるかどうか
	上司にも相談しやすい環境かどうか
	子供ができてからも働きやすい環境が出来れば嬉しいです。時短や週3日制など
	子育てを経験している人が上司になったら人の痛みも受けとめながら、より結束を大切にされた組織運営をフェアにしていく
	子供が小さい間はパート、育った後は社員登用して頂ける会社が増えれば良いと思います
	出産、育児休暇の充実
出産のために仕事を辞め、パートで勤めているという選択肢しかありません	

保育園・学童	保育園を増やしてほしい
	働きたくても保育園がないと働けない
	園を増やしたり、受け入れ人数を増やしたりしてほしい
	保育所や学童の稼働時間が短すぎる。曜日も含めて
	小学生時代の学童保育の充実
	学童の時間も18時まででは短い、もう少し遅くまでしてほしい
	広陵町の学童について、夏休み8時からしか預けられないのが本当に困る
	学童利用にしても「親の送り迎え」が必須など、働く親の立場に立った行政スタイルではない
	小学生の子どもを夜遅くまで預かっていただける環境が充実すると嬉しいです
	町内でスポット利用出来る託児所の増加を期待します
	急な休校などで子供が一人で自宅にいないといけない時のために何か援助があると助かる
	緊急時でもすぐに預かってもらえる施設の設置を希望します
	短時間でも子供のお世話の手伝いとか、子供を持つ若い世代を助けてあげられる機会を作って欲しい
	家でベビーシッターなど見てくれる人がいてもありがたい
	頼れる身内がいなかったため、ベビーシッターを低料金で利用できるシステムが欲しいなと思っていた
	病児・病後児保育等や医療機関者がいる預け先があれば仕事を続けたいと思う
通院や当事者の作業所等への通所など、ライフスタイルに添える送迎、付き添いサービスが皆無であることに困っている	
親子へのサポート	子供の保育所や、学童保育等、放課後が安全に過ごせることが大事かなと思う
	若いお母さん達が安心して働きに出れるように、町でも子供達をサポートして守ってあげてほしいと思っています
	家事や育児により、就労時間が短くなってしまうため、家事サポートを手頃な値段で利用できるようにしてほしい
	保育所も預けられない小さい子供さんをお持ちの親御さんたちを応援してあげたい
	保育園の探し方や利用の仕方について、妊娠した時に教えて欲しい
	赤ちゃんを連れて相談に行くのは大変だから、出産前に知っておけば育児しながら少し先の将来のことも考えられて良いと思う
	産後ケアがほしい
	結婚後、負担は大きく、妥協しながらパート先を選び、やっとのことで社会に出られたという喜びを得た
育休中も社会に関われる環境作りをしてほしい	
不妊治療	不妊治療に対してもっと社会が本気で考えてほしい
	働かないと生活できない。働き過ぎたら、体への負担で妊娠できない
	不妊治療を働きながら続けることが難しく、悩んでいる人が多くなってきていると思う

シニア	シニアの活躍できる職場をお願いします
	死ぬまで現役を目指せる町づくりをお願い致します
	60歳を過ぎても働ける職場を増やしてほしい
	人生100年時代にふさわしい働き口を役場などで紹介できるようにしてほしい
制度・支援	育休手当を毎月振り込みにしてほしい
	保育料が高いため、何のために働いてるのか、わからなくなる
	介護や保育の賃金が安い
	医療費はもっと見直されるべき
	3人以上子供がいる家庭にも、もう少し助成制度があれば嬉しいです
	継続して就業が続けられるような法整備または支援があると有難いと思う。
	期間の延長とその間の給料支給など
扶養・税金等	扶養の制限が低すぎて、それ以上に働こうという気がなくなる
	働きたいけど、社会保険のかねあいで長時間労働するか、短時間労働するか悩んでいます
	年々賃金が上がり嬉しいが、就労時間の制限、扶養内の金額の制限があり、体は楽にはなるが収入面でのアップにはつながらない
	扶養内の103万・130万・150万の壁を増やして下さい
	もう少し税金の軽減、高校無料化など考えてほしい
	もっと賃金、県賃金をUPしてほしい。奈良県は低い
	田舎なのに生活費が高いと感じます。水道費も高いし、ごみ袋も有料のものが要るなど、奈良の他の地域に比べてお金がかかる
アクセス	交通手段を便利にしてほしい
	公共交通機関の充実
	もう少し駅へのアクセスを向上してほしい
	元気号の夜間の本数を増やして欲しい
	徒歩でも行ける職場で働きたい
企業	もう少し企業を増やしてほしい
	この地域には産業も企業も少ないためだと感じます
	町内にも頑張っている企業が多くあることをもっと知れる機会があると良い
性別役割分業意識	独身の時に働いていた会社を、結婚してからも2年位勤めたが、主人の一方的な転勤希望により会社を辞めざるを得ませんでした
	根本的に考え方を改めない自治体や国は動いてくれない
	社会全体で助け合うことが大切
	育児や介護は女性が主として行うことが現在の日本社会の風潮なので、それを公平に行われたらと考えます
	広陵町女性の就業率の低さの理由の中に、旧村の女性の家庭へのしほりも一つの原因ではないでしょうか

雇用形態	期間限定や単発の雇用など、町内や役場での仕事がある場合、声がかかるような登録システムなどを構築してほしい
	スキマ時間に働ける場所を探したい
	小中学校で、人手不足によるボランティア招集があるが、それをもう少しきちんとした形で仕事としてやれるようにしてほしい。
	経験豊富な資格（保育など）を持っていても、働ける所での働き方のパターンなどに限りがあり、人材が埋もれていると思う
	能力のある人も多いと思うので、労働力をうまく活用できる仕組みが整うと町としても良い方向へ向かうのではないかと思います。
	働く意欲があっても働く場所がない人を行政が少しでも助けてくれたらいいなと思う
施設・設備	町内にもっと商業施設等があれば家族や夫婦で出掛けられ、コミュニケーションも取れていいと思う
	住宅ばかりが増えているが、働き場所は大阪などになるので、広陵町の産業活性化を望みます
	道の整備をしっかりとしてほしい
行政	町や行政も働いてほしかったら根っこからの整備をしてほしい
	議会や役所の人たちにはもっと自分が子育て世代だったら？という視点で考えてほしい
	町の広報でも取り上げていただき、女性だけでなく様々な意見が発信できるようにしていただきたい
	実際広陵町の実態が平均を下回っていると書いてあるだけで、具体的な数字が書かれておりません

その他自由記述 —アイデア—

行政サービス (育児・介護・家事)	子供を預ける手続きの簡略化
	長期休み中、昼食の配食サービス（自宅や学童に届けてくれる）があればよい
	学童の充実や長期休暇の場合でも給食などがあれば働き方も変更せず、キャリアもあきらめずに働きやすくなるのではないか
	学童保育は 19:30 ぐらいまで見ていただけるか、17:00 ぐらいに中高学年なら自分で下校するなどしたらよい
	待機児童を減らす
	町の補助ありで小中学生対象の放課後塾など開いては良いのではないかと（東京都 足立区を参考に）
	家事サポート、ファミリーサポート、を気軽に利用できる引換券や○時間利用券などあれば家事負担が軽減できる
	保育と介護施設との連携
	超高齢化社会に対応できる仕組み（高齢者をサポートする事でポイントが付与、高齢者がより長く自立できるインフラ整備等）
	家事等を助けてくれる制度の拡充
	困りごとが急にできた時、即相談できるホットライン的なものを作る
	円滑なコミュニケーションなどのセミナーやワークショップの開催
	立哨などはシルバー人材などをする
	働いている女性の健康のため、気軽に通えるストレッチ・体操教室等を作る。身近にあればストレス解消になると思う
	町内にも病児保育をしてくれる施設があればよい
起業したい人たちへ空き家などの貸し出しや託児所設置	
行政経済支援	扶養内・扶養範囲内の上限を上げる
	税金を少なくする（働いたら住民税を安くする）
	復職時や出産する度（子どもの人数により貰える金額上がる）に、お金を出してくれたら出生率と就業率 UP するのではないかと
町内求人	小さい子を持つお母さん達向けの求人を、町ホームページでお知らせなどあれば嬉しい
	広陵町内で女性の働き手を求められているのであれば、求人広告や直接お話を聞けるような催し物があればいい
	町内の求人を SNS などで発信してほしい
	町内事業所の求人情報を広報誌や別紙（チラシ）に掲載してもらえたらよい
	町内の求人は広報の"こうりょう"に掲載されると町内の求人を見つけやすくなる
	新型コロナの保健所の電話対応等、感染者が増え業務が回らない程対応に困った際は仕事として募集するといいたい

企業 努力	子育てしていても働きやすい環境・労働条件（休みを取りやすい、時間の優遇など）
	どんな職種でも時短勤務か通常勤務かを選択できるようにしてほしい
	託児つきの職場があったら早くから仕事復帰しやすいのではないかな
	企業は自社で保育の環境を整えるべき、子連れで出勤できるようにする
	育児に関してはそもそも女性が出産をする事から育児後のカムバック制度を町も推奨し、企業とも連携しサポート
	町内の企業にも理解を得る、参画企業には町からも何らかの特典を付与することで3者ウィンウィンの関係を構築
	時短勤務を取得する際の子供の年齢制限を高くする
	賃金を上げる
	災害が少ない町でもあるので、農業や花の栽培など特徴があればブランド化も可能かと思う
	やりがいを「見える化」すれば、人としての自信にもつながる
地域 コミュニ ニティ	自由に利用できて、多世代と交流できる場所があるとよい
	コミュニティの場を作る
	育児経験を活かせる場があれば是非協力したい
	子育てを終わった方がボランティアで掃除、2～3時間の育児（母親がお茶出来る時間）などサポートをつくる
	大学生の活用。（パソコン・IT等をシニアと一緒に学ぶ、教えてもらう等）
客観 分析	アンケートなどは、育児・仕事・家事をしながらだと、ポスト投函が手間なので、手軽なネット回答だとよい
	同様のアンケートを女性だけではなく男性にも行い、どういった理由が女性の就業率に影響しているのか調査する
	女性就業率が平均を上回っている他市町村の内、広陵町の状況に近いものを参考にする
交通	通学時間帯に高田駅までのバスがあるとよい
	高齢者の通院に安価で利用できるタクシーなどがあると良い
その他	何もしなくても給料が発生する仕組みになっていることがよくないと思うから、もっと海外の働き方を参考にしてみようか